



# 【変革が進まない企業に向けて】 イノベーションを起こす具体的な方法とは

～ ISO56001を活用すれば、変革は仕組み化できる～  
～実践的マネジメント手法を体系的に解説～



会社紹介

自己紹介

本セミナーの目的

イノベーションの仕組みについて

日本の価値創造

ISO56001の実践

利用ツール

当社のサービス

# ごあいさつ

## ごあいさつ



私たち、システムコンシェルジュは「人」と「信頼」を最も大切にする会社です。決して自分たちだけの成長を追い求め、利益を追求するのではなく、常にお客さまのお困りごとに耳を傾け、お客さまとともに解決していくことで、エンジニアをはじめとする私たちのチームは成長します。その結果、お客さまに継続して価値を提供するイノベーションを実現し、関係する人々が幸せになるようなエコシステムの実現をめざします。

エンジニアとお客さまが幸せになれる会社へ

代表取締役  
飯田 健夫

A handwritten signature in black ink, appearing to read 'T. Iida' with a stylized flourish at the end.

# 会社概要

## 会社概要

|       |   |                |   |
|-------|---|----------------|---|
| 会社名   | 株式会社システムコンシェルジュ   | 設立             | 2005年7月26日  |
| 代表取締役 | 飯田 健夫   | 資本金            | 1,000万円   |
| 所在地   | 東京都千代田区神田錦町2-11-7   | 従業員数           | 45名（役員・従業員・契約社員含む）  |
| TEL   | 03-5577-5735  | 事業内容           | ・イノベーション創出・組織文化醸成事業<br>・ビジネスプロセスアウトソーシング（BPO）事業<br>・ジェネレーティブプロバイダー事業  |
| 拠点    | <b>大阪オフィス</b><br>大阪府大阪市北区梅田2丁目5番8号<br>千代田ビル西別館3階G号室<br><br><b>宮古島オフィス</b><br>沖縄県宮古島市平良字西里1018番地1<br>マティダヒルズ102号 | 主な取引先<br>(50順) | 株式会社エヌオーイー<br>株式会社飯田産業<br>岐阜女子大学<br>株式会社SOYOKAZE<br>株式会社スコープ<br>田島ルーフィング株式会社<br>TIS株式会社<br>株式会社ヒューマントラスト<br>株式会社阪急交通社<br>株式会社マクシスコポーレーション<br>メディカル・データ・ビジョン株式会社<br>株式会社ユニマットライフ |
| 福利厚生  | 関東ITソフトウェア健康保険組合<br>福利厚生サービス：リロクラブ<br>オフィス内：リフレクソロジー/カイロプラクティック/ロルフリング/コーヒー無料<br>退職金制度                          |                |   |

# 当社の強み

## 当社の強み



### IT Infrastructure (IT基盤技術)

堅牢なIT基盤がなければアプリケーションを稼働させることはできません。私たちはThe Linux Foundationを支援する日本を代表するエンジニアを技術顧問とし、最新のIT技術を求めつつ、過去の技術にも目を向けお客さまが求める最適な技術の探求とサービス提供を行います。

### IT Tools (先進的なツール活用)

変化に素早く対応するには、活用できる技術やツール、ライブラリなどを知り、実際に利用することが重要です。私たちはITツールや技術を探求し、実際に体感することで最高のサービスが提供できると考えています。私たちの社内では多くのツールを活用しています。

### IT Practices (成功と失敗によって研鑽される方法論)

ツールや技術自体は価値とはいえません。価値を感じてくれるお客さま、喜んでくれる方々がいて価値に変えることができます。予測不可能な社会のなかで継続的な価値を提供するために、日本初の国際標準企画ISO56002 (イノベーション・マネジメントシステム) の認証を取得し、他では実践していないイノベーションの仕組みを作りました。この仕組みや方法論をお客さまへサービス提供し、「私たちからお客さまへ」「お客さまから私たちへ」それが私たちの考えるチームワークと価値あるサービスの方法論です。

# 当社の強み

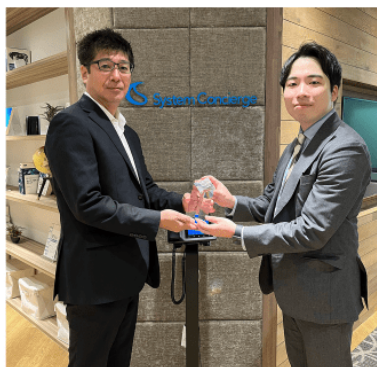
## 日本初のISO56002、及びISO56001の認証取得



### イノベーションの国際標準規格「ISO56001」とは

「ISO56001」は、世界中のイノベーションを起こした企業のマネジメント手法を分析し、考え方や方法論を標準化したイノベーション・マネジメントシステムの国際標準規格です。新しい価値を創出し、価値の継続と向上を実現するためのガイドラインです。

## 人材育成・組織開発に関するアワード受賞

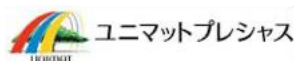


### ラーニングイノベーションアワード2023】とは

人的資本情報の開示が義務化され、人的資本経営への注目が日々高まる中、多くの日本企業が人材投資による取り組みを加速しています。ALL DIFFERENT株式会社は、人材育成に取り組む企業に様々な事例を紹介し、新たな知見や視点を提供するために、年に一度「ラーニングイノベーションアワード」を開催し、人材育成・組織開発において優れた取り組みを行っている企業を表彰しています。ラーニングスパイラル賞は、「気づく」「学ぶ」「できる・変わる」「続ける」の全ステップを構築し、実効を上げている企業に授与されます。

# 主要な顧客

旅行・観光業界



金融・保険業界



製造業界



介護・ヘルスケア業界



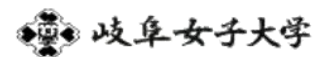
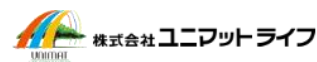
広告・メディア業界



IT業界



その他、人材派遣・飲食など



地方自治体



# 4つの事業内容

お客様の  
経営課題

対話・共感  
調査・検証

最適な解  
決方法

継続可能  
な運用

## ジェネレーティブプロバイダー事業

ジェネレーティブプロバイダーとは、課題となるキーワードを伝えるだけで、解決策や最適なITツールの選定、導入から運用まで支援できる「コンサル能力を持つITプロバイダー」のことで、私たちは豊富な知識と経験で、信頼されるITサービスを提供します。

## デジタルトランスフォーメーション事業

予測困難なビジネス環境でも継続的な成長を実現するDX化に必要な3つの要素について、最適なITツールでDX化を実現します。

- データの蓄積と分析基盤
- プロセスの自動化、データ連携
- イノベーション管理/プロジェクト管理/ナレッジ管理

## ITインフラエンジニアリング事業

可用性・完全性・機密性が確保されたIT基盤によって、お客さまは継続的にITサービスが利用できます。私たちのセキュリティ、ネットワーク、データ保護、稼働監視などの基盤技術によってお客さまの継続的なビジネスとITサービスを支えます。

## ビジネスプロセスアウトソーシング事業

お客さまのIT運用業務の深刻な人材不足を私たちの専門チームが支援します。お客さまがIT戦略機能を取り戻し、IT資産管理やヘルプデスク、PCキittingなどの実作業領域を当社の専門チームが行います。ホスピタリティを重視した私たちのサポート力を実感してください。

## 最適な方法 (Process)

### 各種マネジメントシステム

(ITサービス管理、イノベーション管理、ナレッジ管理、プロジェクト管理、セキュリティ管理、人工知能 (AI) 管理など)

### フレームワーク / ガイドライン

(Scaled Agile Framework®, ISO56002/ISO56001、ISO30401、ISO9001、ISO42001、ISMS、セキュリティ基準など)

### 経験・実績

(統合基幹業務システム、ビジネスインテリジェンス (BI)、文書情報管理、グループウェア、セキュリティなど)

## 高い技術力 (Technology)

**ハードウェア** (サーバー、ネットワーク機器・無線LAN、PC、PBX、IP電話など)

**ソフトウェア** (OS、アプリケーション、データベース、ミドルウェアなど)

### セキュリティ

(ネットワーク/エンドポイント/SASE/ゼロトラスト/アプリケーションセキュリティなど)

### デジタルトランスフォーメーション

(RPA、iPaaS、DWH、BI、生成AI、テキストマイニングなど)

## 信頼される人 (People)

**プロジェクトマネジメント力** (アジャイル・スクラム、ウォーターフォールなど)

**イノベーション力** (イノベーション国際資格、イノベーションプロフェッショナル資格など)

**技術力** (AWS資格、Oracle資格、LPIC/LinuC資格、CCNA資格、その他IT関連資格など)

**業務理解力** (簿記、販売士、旅程管理主任者、社労士、その他業務資格など)

## デジタルトランスフォーメーション事業

予測困難なビジネス環境でも継続的な成長を実現するDX化に必要な3つの要素について、最適なITツールでDX化を実現します。

- データの蓄積と分析基盤
- プロセスの自動化、データ連携
- イノベーション管理/プロジェクト管理/ナレッジ管理

# デジタルトランスフォーメーション(DX)

新しい価値の創造と創出  
継続的な成長とカイゼン

データ蓄積と分析基盤

分析レポート・BIツール



データ基盤 / 分析レポート



プロセスのデジタル化

エンタープライズ・ワークフロー

MAJOR FLOW

業務の自動化 : RPA

BizRobo!

ローコード・プラットフォーム



イノベーション管理

イノベーション管理のデファクトスタンダード



ナレッジ管理



プロジェクト管理



## デジタルトランスフォーメーション事業

予測困難なビジネス環境でも継続的な成長を実現するDX化に必要な3つの要素について、最適なITツールでDX化を実現します。

- データの蓄積と分析基盤
- プロセスの自動化、データ連携
- イノベーション管理/プロジェクト管理/ナレッジ管理

# デジタルトランスフォーメーション(DX)

新しい価値の創造と創出  
継続的な成長とカイゼン

データ蓄積と分析基盤

分析レポート・BIツール



データ基盤 / 分析レポート



プロセスのデジタル化

エンタープライズ・ワークフロー

MAJOR FLOW

業務の自動化 : RPA

BizRobo!

ローコード・プラットフォーム



イノベーション管理

イノベーション管理のデファクトスタンダード



ナレッジ管理



プロジェクト管理



## デジタルトランスフォーメーション事業

予測困難なビジネス環境でも継続的な成長を実現するDX化に必要な3つの要素について、最適なITツールでDX化を実現します。

- データの蓄積と分析基盤
- プロセスの自動化、データ連携
- イノベーション管理/プロジェクト管理/ナレッジ管理

# デジタルトランスフォーメーション(DX)

## イノベーション管理

### ISO56001コンサルティングサービス

国内初のISO56002/ISO56001の両方を取得した株式会社システムコンシェルジュが、現状分析アセスメント、マニュアル、規定などの文書類、運用開始時に必要な力量などを行い、適合表を発行します。企業におけるイノベーション機能の検査に最適なサービスです。

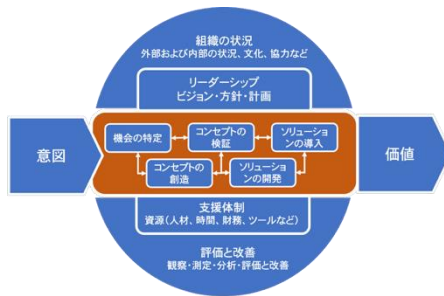
### イノベーション管理ツール導入サービス

米国のイノベーション活動を2008年から現在まで支えているイノベーション管理ツール『IDEASCALE』の導入支援サービス。その他、プロジェクト管理、ナレッジ管理の導入支援サービスも提供。

### イノベーション組織変革支援サービス

イノベーション組織への変革には、仕組み(制度)と役割、権限に適合したヒトの思考(リテラシー)が必要不可欠です。そのための人的力量を高めるための教育講座を提供しています。

- ・GIMI イノベーション国際認定資格取得講座
- ・エフェクチュエーション基礎講座



### イノベーション管理のデファクトスタンダード



ナレッジ管理



プロジェクト管理

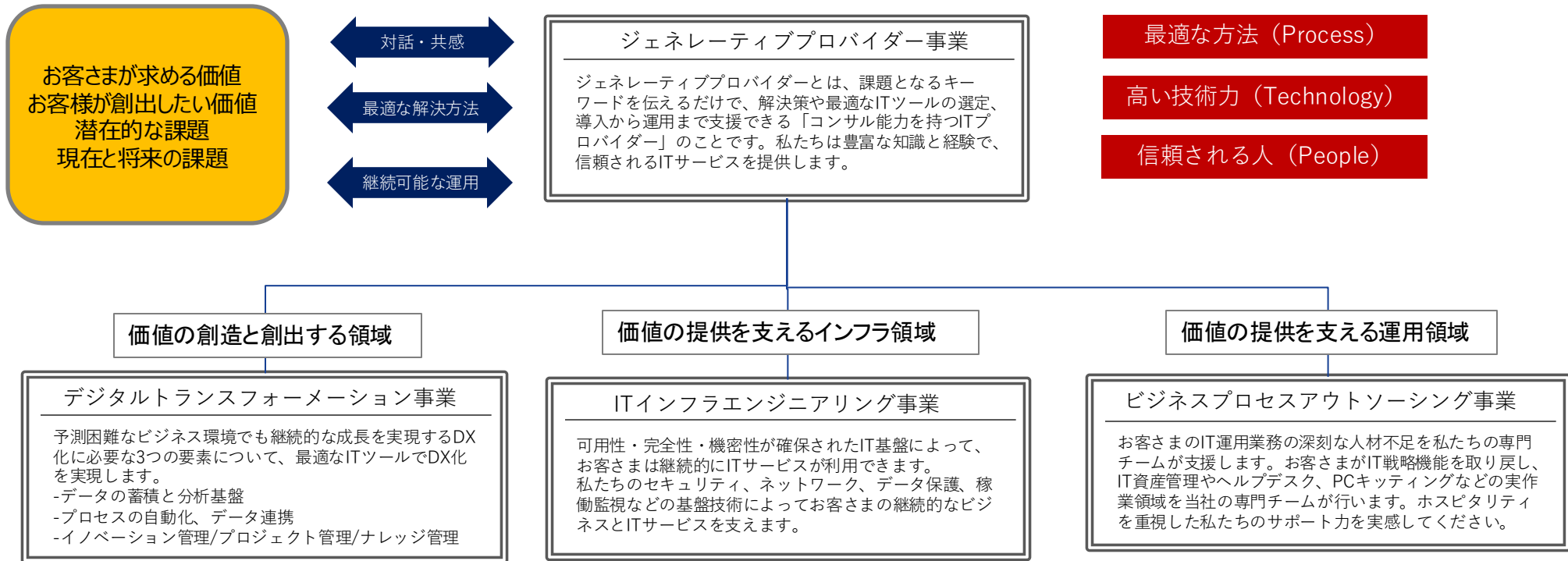


国際的なイノベーション方法論



国際的なイノベーション思考法：エフェクチュエーション

# ジェネレーティブ・プロバイダー（価値創出型（Generative）ITサービス企業のこと）

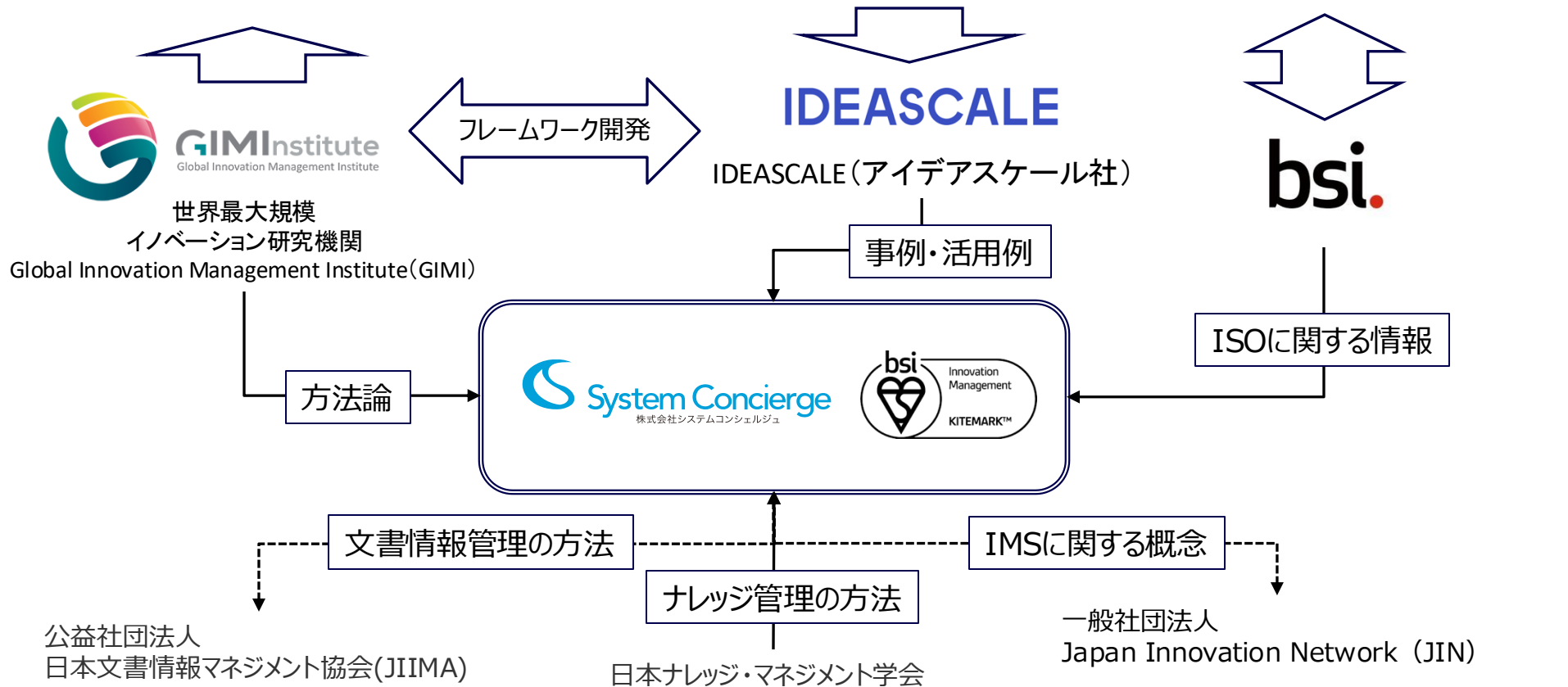


# イノベーション・マネジメントシステムに関する関係チャネル

ISO56001 / ISO56002策定への協力

イノベーション活動に関する事例

ISO56001/ISO56002認証審査



会社紹介

自己紹介

本セミナーの目的

イノベーションの仕組みについて

日本の価値創造

ISO56001の実践

利用ツール

当社のサービス

## 自己紹介



### 大塚 和彦（おおつか かずひこ）

株式会社システムコンシェルジュ  
取締役 兼 Chief Innovation Officer

#### 略歴

1967年、埼玉県生まれ。幼少期にゲームを禁止され、どうしてもゲームがやりたいのでアセンブラ言語とBASIC言語でゲームプログラムの開発を行う。大学卒業後、営業職を希望し、リコー情報システム株式会社（現リコージャパン）に入社。MA事業部にて、主に新規顧客開拓、新規事業立ち上げに関わる。その後も数社に転職し、ほとんどが新規顧客開拓、新規事業立ち上げに関わる経験をもつ。

2023年4月、株式会社システムコンシェルジュに入社し、イノベーション活動（事業創出など）を行いながら、業務・インフラ・アプリケーションなど多種多様な経験から、お客さまのお悩みを解決するコンシェルジュとして活動を行なっている。

20代：新卒から入社2年目頃から新規事業や新規顧客、新しいソリューション創造に関わる

30代前半：家業の製麺会社にてラーメン店、中華料理店に食材を提供

30代後半：大手SI関連会社にて新規顧客、新規事業に関わる

40代前半：海外製品の日本法人立ち上げ、および別会社の新規事業の立ち上げ

40代後半：大手SI会社のオープンソース事業に関わる

50代前半：2019年2月にIPOしたプロジェクト管理／ナレッジ管理の会社に関わる

現在：新規事業、新規顧客、IPOなどの経験を活かし、イノベーション管理ツールをベースとした価値創造の仕組みや方法論のサービス提供

# スピーカー紹介

大塚 和彦 (おおつか かずひこ)



株式会社システムコンシェルジュ  
取締役 兼 Chief Innovation Officer

## 略歴

1967年、増田川に生まれ、東京府立大田高等学校卒業。大学卒業後、営業職を希望し、リコー情報システム株式会社（現リコージャパン）に入社。MA営業部に在り、主に新規顧客開拓、新規事業立ち上げに関わる。その後も数社にて営業職に在り、営業に関わる経験をもつ。

新規事業開発 / 新規顧客開拓

ナレッジ管理

2023年4月、株式会社システムコンシェルジュに入社し、インノベーション・マネジメント・システム部にて、インフラ・アプリケーションなど多種多様な経験から、お客さまのお悩みを解決するコンシェルジュとして活動を行

文書情報管理

プロジェクト管理

事業継続

20代：新卒から入社2年目頃から新規事業や

30代前半：家業の製麺会社にてラーメン店、中華料理店に食材を提供

30代後半：大手SI関連会社にて新規顧客、

40代前半：海外製品の日本法人立ち上げ、お

40代後半：大手SI会社のオープンソース事業に関わる

50代前半：2019年2月にIPOしたプロジェクト管理／ナレッジ管理の会社に関わる

現在：新規事業、新規顧客、IPOなどの経験を活かし、インノベーション管理ツールをベースとした価値創造の仕組みや方法論のサービス提供

インノベーション・マネジメントシステム

会社紹介

自己紹介

本セミナーの目的

イノベーションの仕組みについて

日本の価値創造

ISO56001の実践

利用ツール

当社のサービス

## 本セミナーの目的

---

1. イノベーションの仕組みの必要性を理解
2. イノベーション・マネジメントシステム（IMS）の概要の理解
3. イノベーション・マネジメントシステム（IMS）の効果の理解
4. 株式会社システムコンシェルジュのサービスの理解

会社紹介

自己紹介

本セミナーの目的

イノベーションの仕組みについて

日本の価値創造

ISO56001の実践

利用ツール

当社のサービス

## イノベーションの仕組みについて

イノベーションとは

イノベーション・マネジメントシステムの原則

わかっているけどできない理由

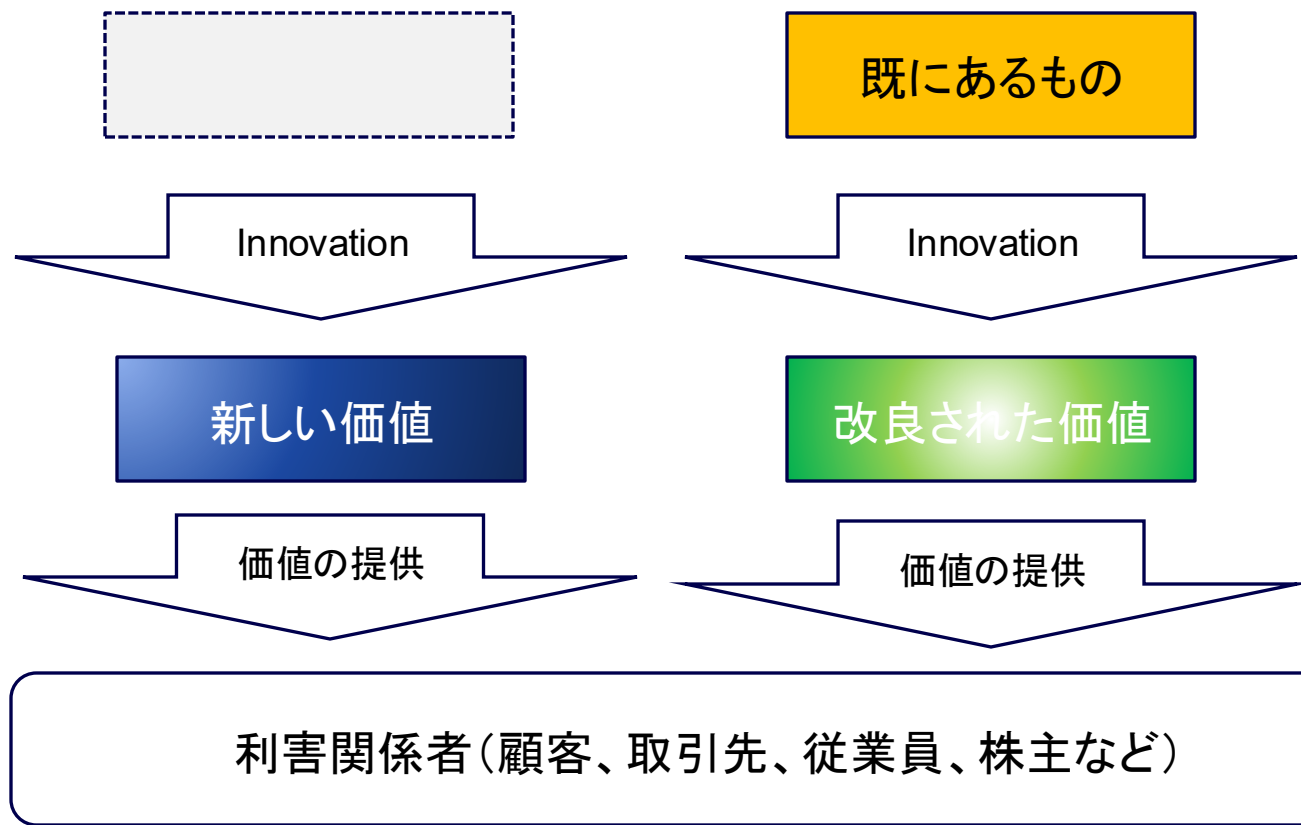
検査・分析が必要

期待効果

イノベーションとは





イノベーションとは

**イノベーション (innovation) とは、価値を創出する新しいものを実現すること。**  
“new or changed entity realizing or redistributing value.”



## イノベーションの分類

オスロマニュアル（※）に記載される4つのイノベーション分類

|  |   |   |   |
|--|---|---|---|
| <p><b>プロダクト・イノベーション</b></p> <p>新しい商品・サービス（技術革新）や既存の商品・サービスを改善して市場に投入すること</p> |  | <p><b>プロセス・イノベーション</b></p> <p>製造、流通の仕組みを新しく、または既存のものを改善して導入すること</p> |  |
| <p><b>組織イノベーション</b></p> <p>新しい価値を生み出すためにふさわしい組織のマネジメント方法を導入すること</p>          |  | <p><b>マーケティング・イノベーション</b></p> <p>新しい顧客の開拓方法や販売方法を生み出すこと</p>         |  |

イノベーションの対象は、製品・サービスだけではない

オスロ・マニュアル（Oslo Manual）とは、  
各国のイノベーション活動を比較・分析するための国際的な指針を示した文書です。  
正式名称は「Guidelines for Collecting, Reporting and Using Data on Innovation（イノベーションに関するデータ収集・報告・活用のためのガイドライン）」です。

## イノベーションの仕組みについて

イノベーションとは

イノベーション・マネジメントシステムの原則

わかっているけどできない理由

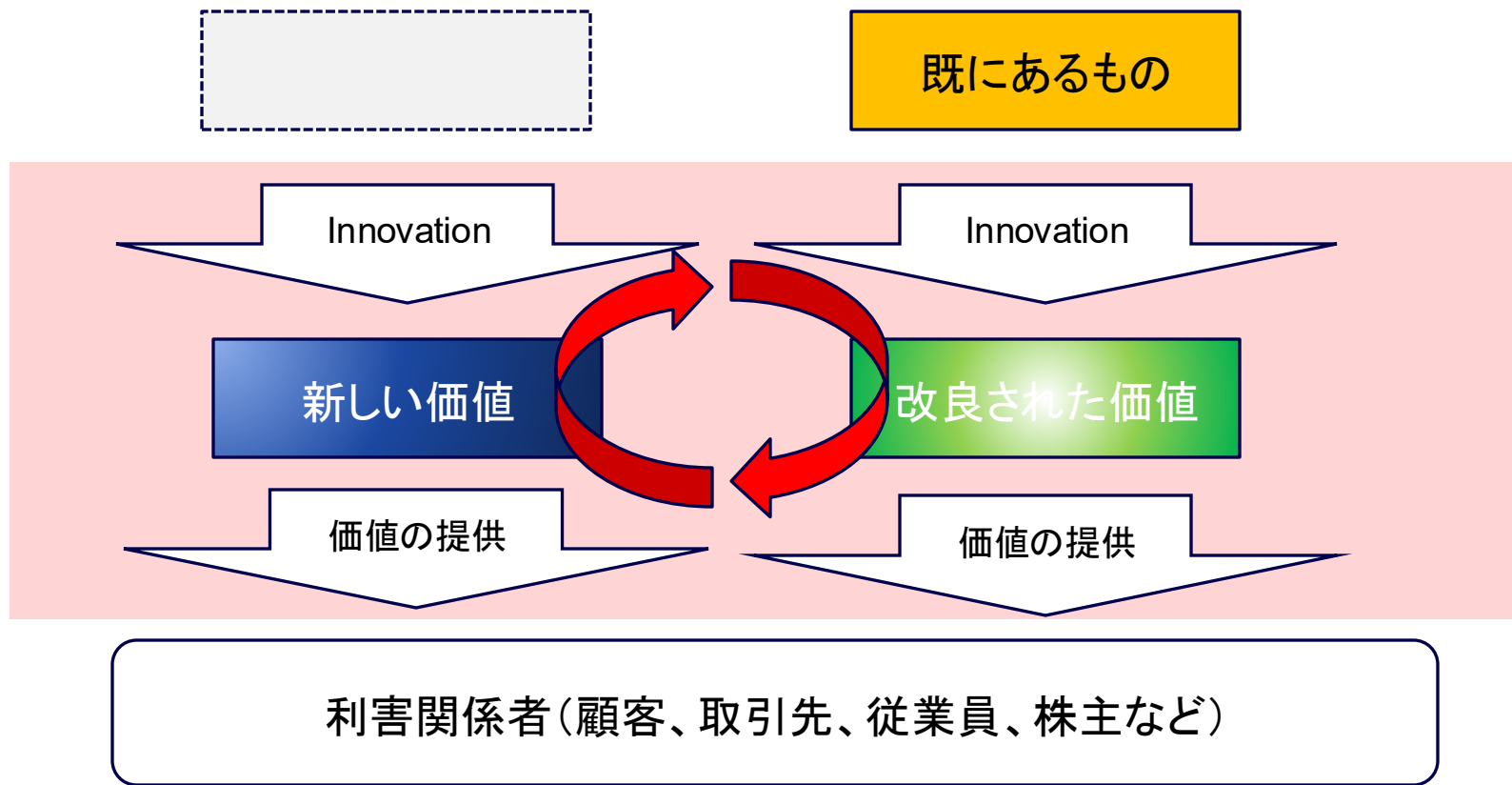
検査・分析が必要

期待効果

イノベーション・マネジメントシステムとは

イノベーション・マネジメントシステムとは

組織が継続的かつ体系的にイノベーションを創出・実現するための仕組みです。  
イノベーション活動を「偶然」ではなく「仕組み」として実現するためのマネジメント手法です。



## イノベーションの仕組み について

イノベーションとは

イノベーション・マ  
ネジメントシステム  
の原則

わかっているでもでき  
ない理由

検査・分析が必要

期待効果

## ISO56001（イノベーション・マネジメントシステム）の8つの原則

| 原則          | 概要   |
|-------------|--|
| 価値の実現       | 新たなまたは変化したソリューションの導入・採用・影響を通じて、財務的・非財務的な価値が利害関係者に対して実現される。 |
| 未来志向のリーダー   | 好奇心と勇気を持つリーダーが、刺激的なビジョンと目的を掲げ、継続的に人々を巻き込みながら現状に挑戦する。       |
| 戦略的方向性      | イノベーション活動の方向は、共有された目的と野心のレベルに基づいており、必要な人材と資源によって支えられている。   |
| 組織文化        | 変化へのオープンさ、リスクテイク、協働を支える価値観、信念、行動様式の共有により、創造性と実行力の共存を実現する。  |
| 洞察の活用       | 内外の多様な情報源から得られる知識を活用し、顕在的・潜在的ニーズを的確に捉え、活用する。               |
| 不確実性のマネジメント | システマティックな実験と反復的なプロセスから学びながら、リスクと不確実性を評価・活用し、マネジメントする。      |
| 適応性・柔軟性     | 組織の文脈変化に応じて、構造・プロセス・スキル・価値実現モデルをタイムリーに適応させ、イノベーション力を最大化する。 |
| システムのアプローチ  | 相互に関連し、連携する要素で構成されるシステムとしてイノベーションをマネジメントし、定期的な評価と改善を行う。    |

# イノベーションの仕組みについて

イノベーションとは

イノベーション・マネジメントシステムの原則

わかっていてもできない理由

検査・分析が必要

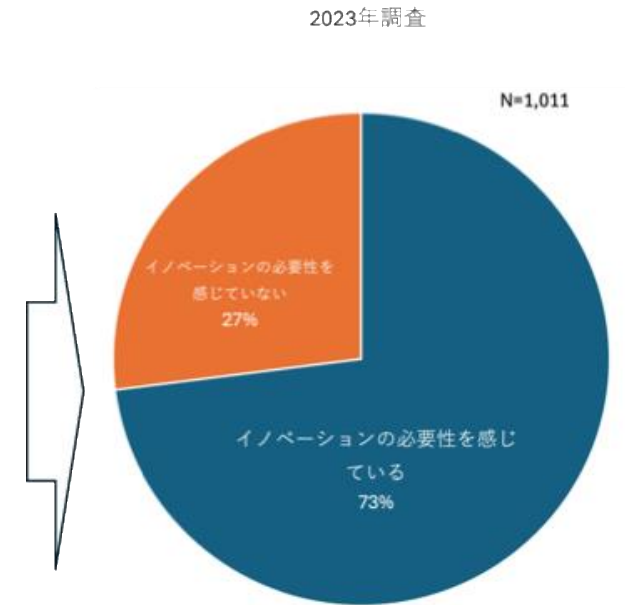
期待効果

わかっていてもできない理由

多くの企業は、イノベーションの必要性を感じています。



資料：中小企業庁委託「市場開拓」と「新たな取り組み」に関する調査  
(2014年、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株))



出典：中小企業庁委託「中小企業のイノベーションの現状に関する調査」  
(2023年、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株))

## イノベーションの仕組みについて

イノベーションとは

イノベーション・マネジメントシステムの原則

わかっていてもできない理由

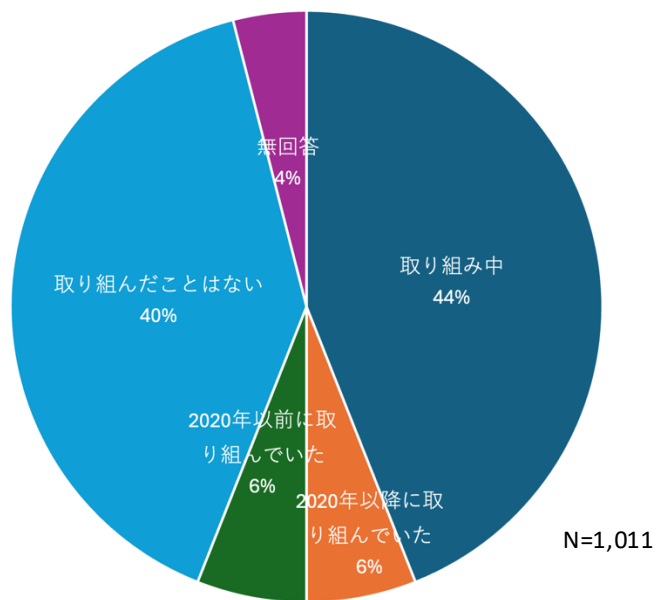
検査・分析が必要

期待効果

わかっていてもできない理由

多くの企業は、イノベーションに取り組みはじめています。

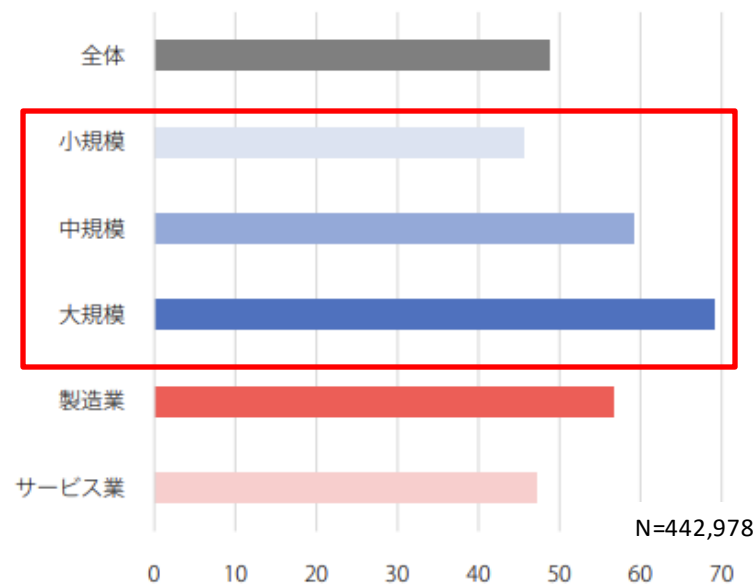
### イノベーション活動に取り組んでいるかどうか



出典: 中小企業庁委託「中小企業のイノベーションの現状に関する調査」  
(2023年、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株))

### (参考)同種の調査における結果

イノベーション活動実行企業率(2017年-2019年)  
実行企業率(%)(全企業に対する割合)



出所: 全国イノベーション調査 2020年調査、科学技術・学術政策研究所 統計表16

## イノベーションの仕組み について

イノベーションとは

イノベーション・マ  
ネジメントシステム  
の原則

わかっていてもでき  
ない理由

検査・分析が必要

期待効果

わかっていてもできない理由（代表例：6つ）

**イノベーション＝特別な活動** という誤解

イノベーション＝新しい発明（研究開発）

イノベーション＝新事業



目的が、利害関係者に価値を届けるではなく、新規事業を立ち上げる、新しい技術や製品を生み出す研究開発などに変わってしまう場合がある。

**属人的成功体験** への依存

うちには、うちのやり方がある（拒否）  
このやり方で成長した（固執、依存）



自分たちのやり方＝過去の成功体験に固執し、時間もかかり、成果も出せないジレンマに陥ってしまう。

わかっていてもできない理由

**経営層の「戦略的整合」の欠如**

短期的成果を重視し、場当たり的になる  
方針・戦略がコロコロ変わる



中長期的な戦略よりも短期の売上、利益を確保を重視することで

- 1) 方針や戦略、目標がコロコロ変わる（＝混乱）
- 2) 中長期的な目標を達成できなくなる。（＝衰退）

**組織文化：失敗回避と評価制度の問題**

言われたことをすれば、責任を問われない  
余計なことをして、怒られたいくない



マニュアル、指示に従って仕事をすれば、責任に問われない。  
（＝従業員の仕事停止）

失敗したら減点され、異動されたり、給与も下がる。  
（＝失敗への恐怖）

## イノベーションの仕組み について

イノベーションとは

イノベーション・マ  
ネジメントシステム  
の原則

わかっていてもでき  
ない理由

検査・分析が必要

期待効果

わかっていてもできない理由

### 投資を拒み、コスト重視 の問題

教育やコンサルには投資はするが、  
仕組み化するためのインフラや制度には投資  
しない



いま困っていないものに対して、  
優先順位が低い（＝短期視点の弊  
害）

制度や仕組みは、現場が作るもの  
で経営は、方針・戦略を決めるも  
の（＝支援がない）

### 閉じたイノベーション文化 の問題

「技術・情報は社内で守るもの」という意識  
が強く、共創はするが重要な情報は出せない。

インサイダー、情報漏洩などの法律違反が不  
安（＝失敗への恐怖）



共創型のイノベーションに対して、  
どこまで情報開示したらよいかわ  
からない（＝経験不足）

悪用されたり、自身が知らずに法  
律違反をしてしまうことへの恐怖

イノベーションの仕組み  
について

イノベーションとは

イノベーション・マ  
ネジメントシステム  
の原則

わかっているもでき  
ない理由

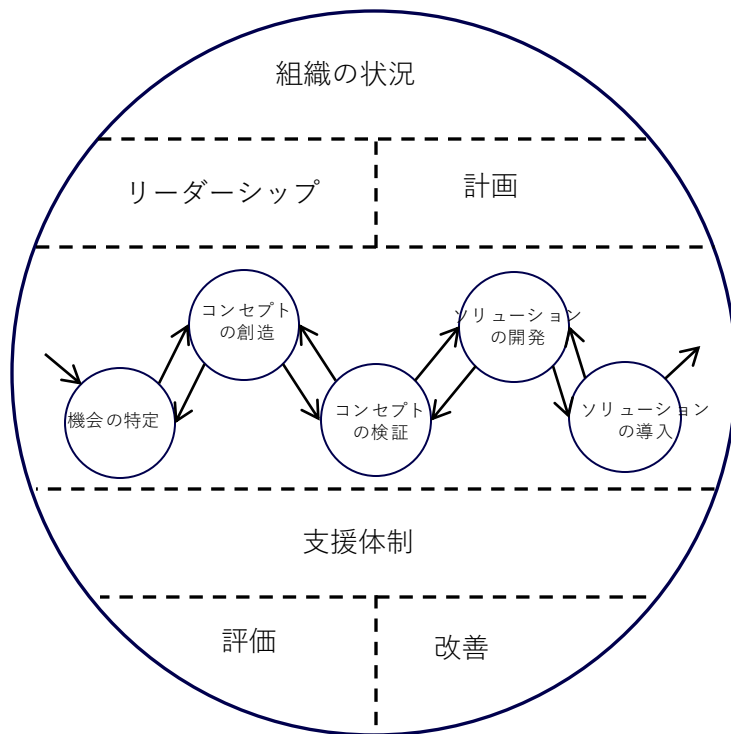
検査・分析が必要

期待効果

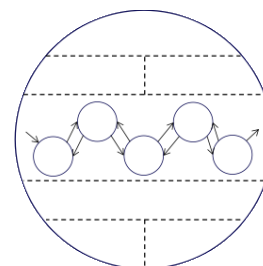
検査・分析が必要

自動車に車検があるように、安全に安定して自動車が動くのかを定期検診するように、国際標準規格：ISO56001（イノベーション・マネジメントシステム）の審査によって検査を行うことが大事です。

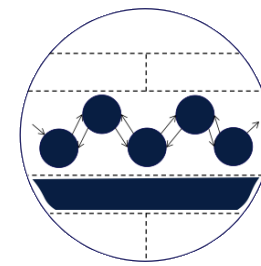
ISO56001アセスメントサービスより、現在の状況が可視化されます。（2026年リリース予定）



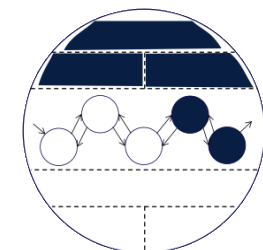
ISO56001体系図



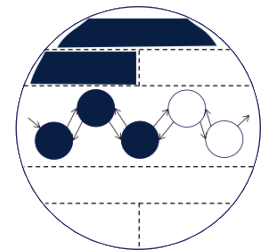
虚無型



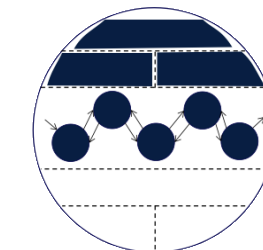
組織非成長型



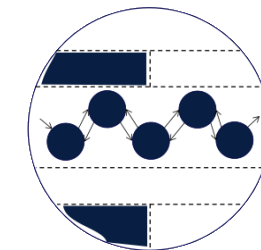
組織崩壊型



場当たりの



形骸化



現場批判型

# イノベーションの仕組みについて

イノベーションとは

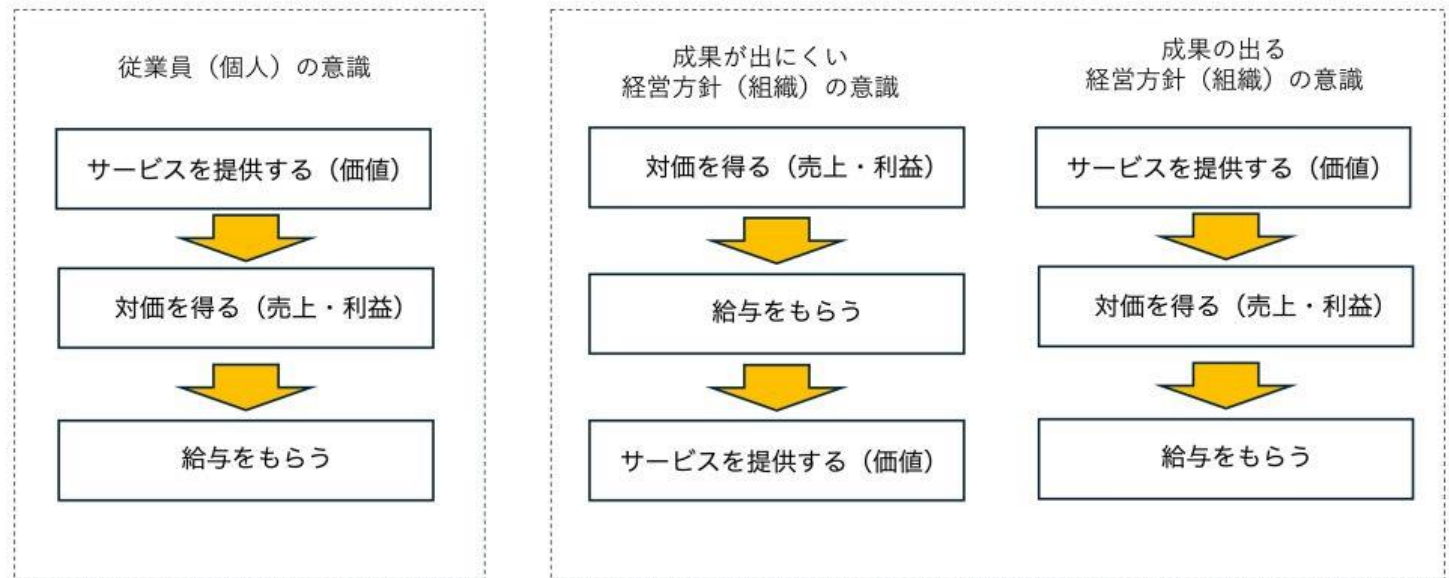
イノベーション・マネジメントシステムの原則

わかっているでもできない理由

検査・分析が必要

期待効果

## 期待効果



価値の構造化

経営リテラシーの向上

経営と従業員が直結

# イノベーションの仕組みについて

イノベーションとは

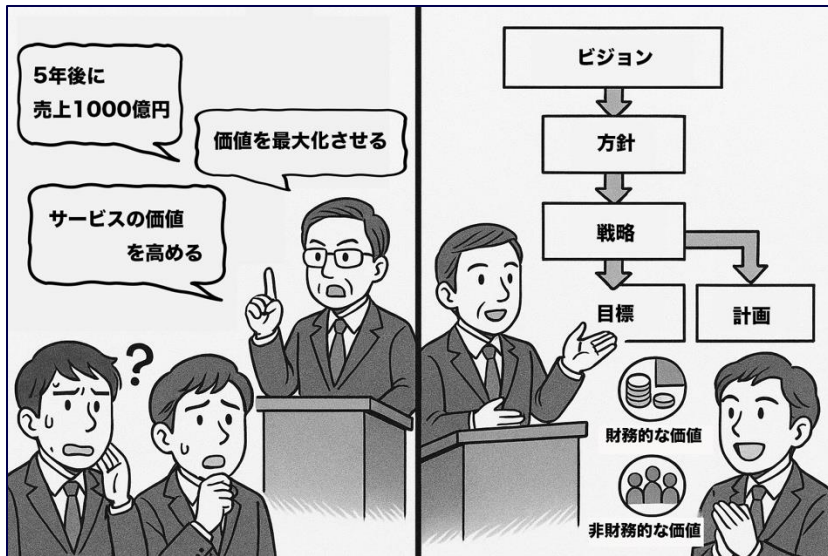
イノベーション・マネジメントシステムの原則

わかっているけどできない理由

## 期待効果

経営リテラシーが低い場合

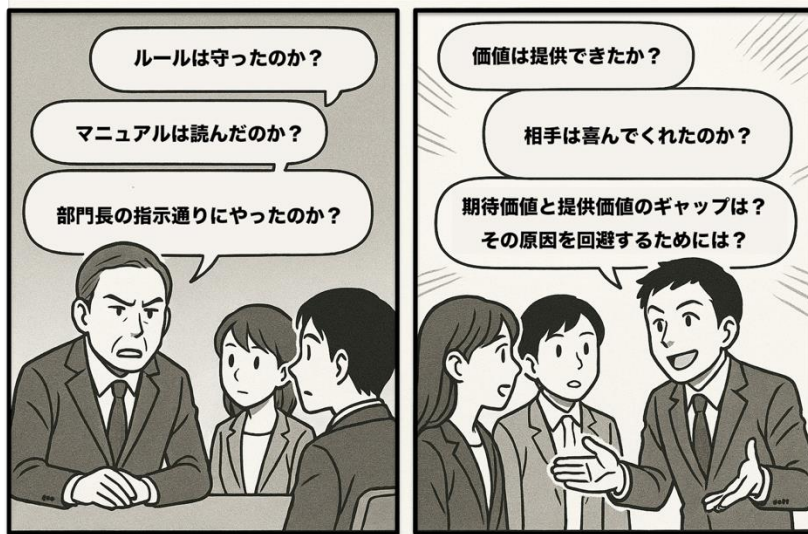
経営リテラシーが高い場合



経営と従業員が直結される

経営リテラシーが低い場合

経営リテラシーが高い場合



マネジメント思考が大きく変わる

検査・分析が必要

期待効果

## イノベーションの仕組み について

イノベーションとは

イノベーション・マ  
ネジメントシステム  
の原則

わかっているでもでき  
ない理由

検査・分析が必要

期待効果

## 期待効果

### 指導や研修では



### 実際の現場では



「個人」の教育と現実組織との  
ギャップが解消される

## イノベーションの仕組みについて

イノベーションとは

イノベーション・マネジメントシステムの原則

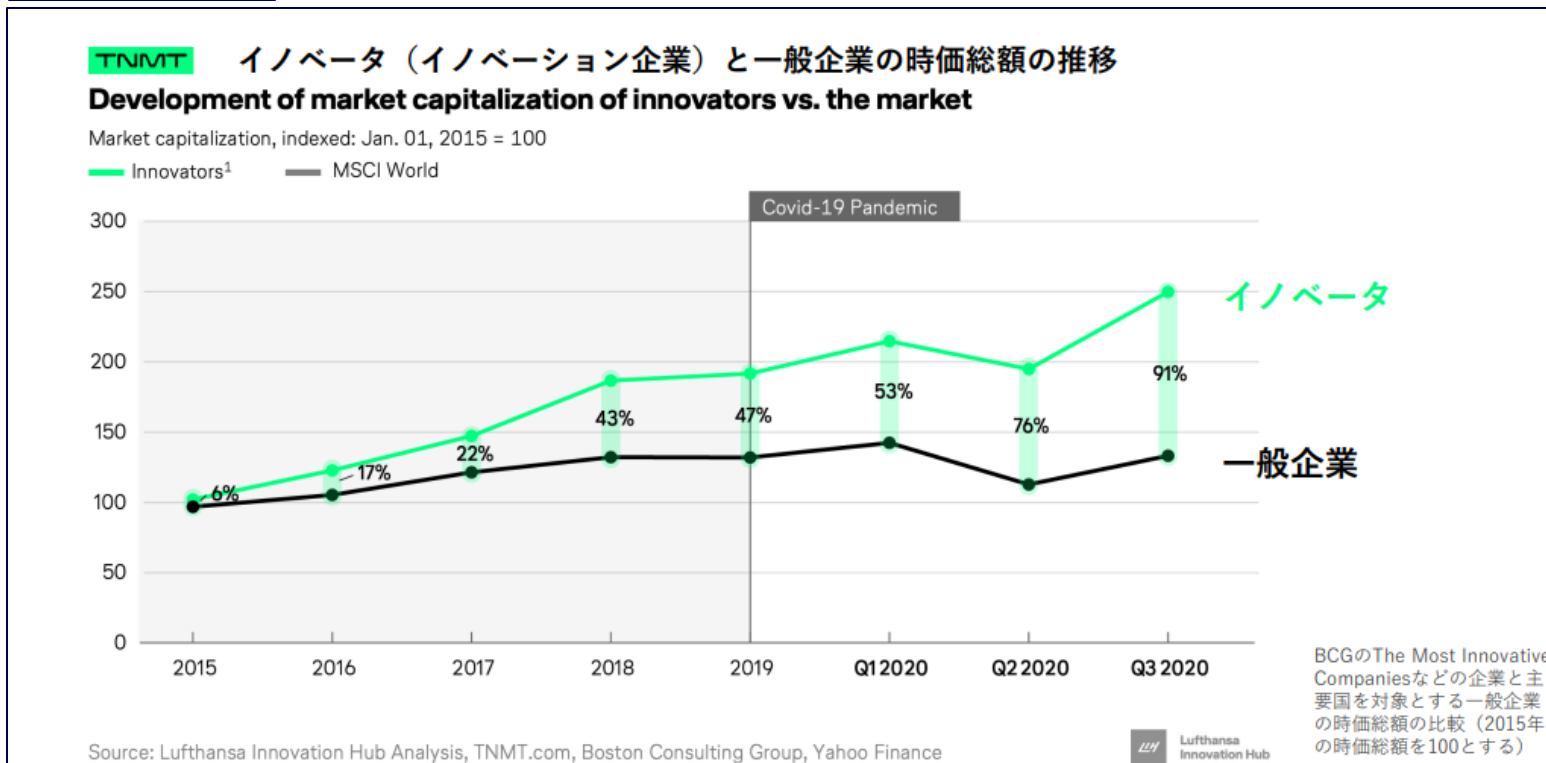
わかっているけどできない理由

検査・分析が必要

期待効果

## 期待効果

### 時価総額の増加



株価の上昇や投資家や金融からの資金調達がしやすくなる

ISO56001は、社会的要求事項の中心に存在する

会社紹介

自己紹介

本セミナーの目的

イノベーションの仕組みについて

日本の価値創造

ISO56001の実践

利用ツール

当社のサービス

# ISO56000シリーズ（イノベーション・マネジメントシステム）とは

## ISO56001（イノベーション・マネジメントシステム）とは

不確実性のビジネス環境を前提にした「継続的な成長と価値の創出」を促進するための国際標準規格です。

### マネジメント規格

2024年9月10日発行

| ISO 規格番号  | 日本語タイトル                  | 主な内容                       |
|-----------|--------------------------|----------------------------|
| ISO 56001 | イノベーションマネジメントシステム — 要求事項 | イノベーションマネジメントシステムの要求事項を規定。 |

2019年7月発行  
2023年：JIS規格化  
JIS Q 56002:2023イノベーション・マネジメントシステム

### 基本規格

| ISO 規格番号  | 日本語タイトル                                   | 主な内容                         |
|-----------|---|------------------------------|
| ISO 56000 | イノベーションマネジメント — 基礎と用語                     | イノベーションマネジメントに関する基本概念と用語の定義。 |
| ISO 56002 | イノベーションマネジメント — イノベーションマネジメントシステム — ガイダンス | イノベーションマネジメントシステムの実装ガイドライン。  |

### 個別規格

| ISO 規格番号  | 日本語タイトル                                   | 主な内容   |
|-----------|---|--|
| ISO 56003 | イノベーションマネジメント — イノベーションパートナーシップのためのツールと方法 | イノベーションパートナーシップを形成するための方法論。  |
| ISO 56004 | イノベーションマネジメント評価 — ガイダンス                   | イノベーションマネジメントの評価方法に関するガイド。   |
| ISO 56005 | イノベーションマネジメント — 知的財産管理のためのツールと方法          | イノベーションにおける知的財産管理のガイドライン。  |
| ISO 56006 | イノベーションマネジメント — 戦略的インテリジェンス管理 — ガイダンス     | 戦略的インテリジェンスの管理方法に関する指針。  |
| ISO 56007 | イノベーションマネジメント — アイデアマネジメント                | アイデア管理のためのプロセスとツール。  |
| ISO 56008 | イノベーションマネジメント — イノベーション運用測定のためのツールと方法     | イノベーション活動の測定および評価のためのツールと方法。   |
| ISO 56010 | イノベーションマネジメント — ISO 56000の実例集             | ISO 56000シリーズの概念を説明するため、さまざまな業界の具体例を提供。イノベーション管理システムを理解しやすくするための事例や図解が含まれています。 |

日本の価値創造

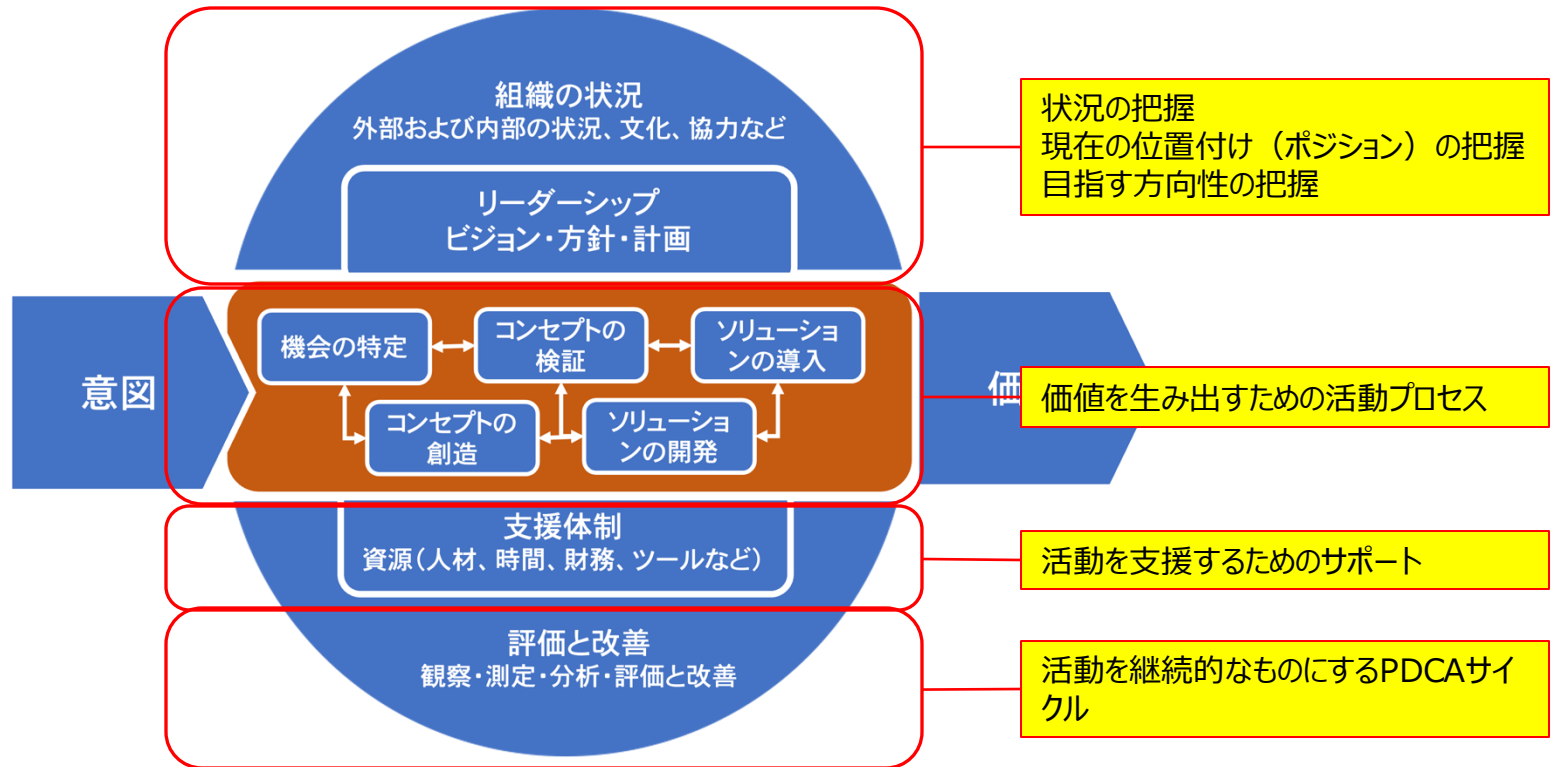
ISO56000とは

日本政府の動き

日本企業の動き

# ISO56000シリーズ（イノベーション・マネジメントシステム）とは

ISO56001の概念図は、下図のとおりです。  
ISO56001は、組織の継続的な価値創造を仕組み化し、機能させることを目的としています。



ISO56001の基本体系

日本の価値創造

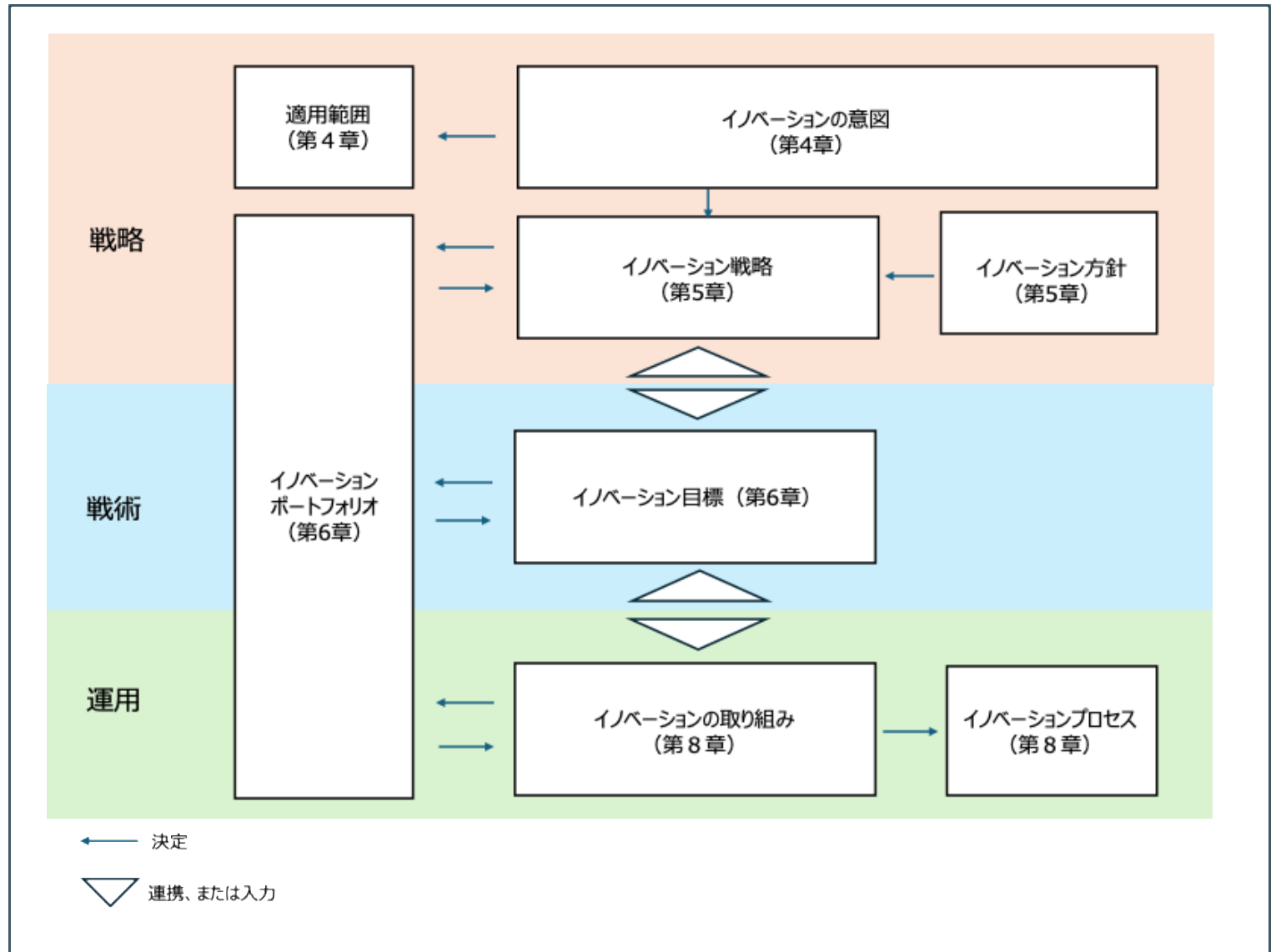
ISO56000とは

日本政府の動き

日本企業の動き

# ISO56000シリーズ（イノベーション・マネジメントシステム）とは

ISO56001の管理レベルは、次の通りです。



日本の価値創造

ISO56000とは

日本政府の動き

日本企業の動き

# ISO56001（イノベーション・マネジメントシステム）の効果

ISO56001を引用した仕組み化によって、次の事項に示す効果があります。

組織の自律的 & 継続的な価値創出を促す

価値創造経営へのシフト  
～ ISO56001がもたらす主な6つの効果～

## オープンイノベーションによる価値協働

外部・内部資源を可視化し、価値創出に必要な経営資源を早期に確保します。国内外のベンチャー企業情報から、従業員の経験・スキルなどを可視化するタレントマネジメントによって、成功率の高いチームビルディングを実現します。

## サステナビリティ（SDGs）経営対応

経済産業省「価値協創ガイドンス 2.0」では、サステナビリティ・トランスフォーメーション（SX）実現について説明。ガイドンスの要求事項を実現するために、国際標準規格：ISO56001の参照が有益であることが示されています。人的資本、ナレッジ蓄積、組織構造、計画など、そのすべてをISO56001では、組織に適用するための方法論を記載しています。

## DXの進化と深化

デジタルトランスフォーメーション（DX）の目的は価値の創出です。そのための基盤として、ITツールによるプロセスのデジタル化・自動化、データを蓄積するデータレイクが必要です。そして最後の価値創造のプロセス化を担うのが、ISO56001となります。

## 利害関係者とのエンゲージメント

組織は利害関係者のニーズや期待を体系的に理解し、イノベーションの方針や戦略に反映させることができます。これにより、利害関係者との信頼関係が深まり、共創や協働を通じたイノベーションが促進されます。結果として、組織の価値創出力や競争力が上がり、持続可能な成長につながります。

## 時価総額の増加

組織がイノベーション能力を体系的に示すことは、国際的な信頼指標です。投資家や株主は企業の将来性や成長性に対して確信を持ちやすくなり、資金調達力の向上や評価の見直しが期待されます。結果として、企業価値が市場で適切に評価され、時価総額の増加につながる効果があります。調査会社より事実を示すグラフも公表されています。

## 価値創造組織への変革（人材育成と組織開発）

価値創出に必要な力量やスキルの明確化と育成が促進され、体系的な教育によって人材の能力が強化されます。組織全体で創造性や挑戦を支える文化が醸成され、学習する組織へと進みます。これにより、持続的な成長を支える基盤が構築されます。

日本の価値創造

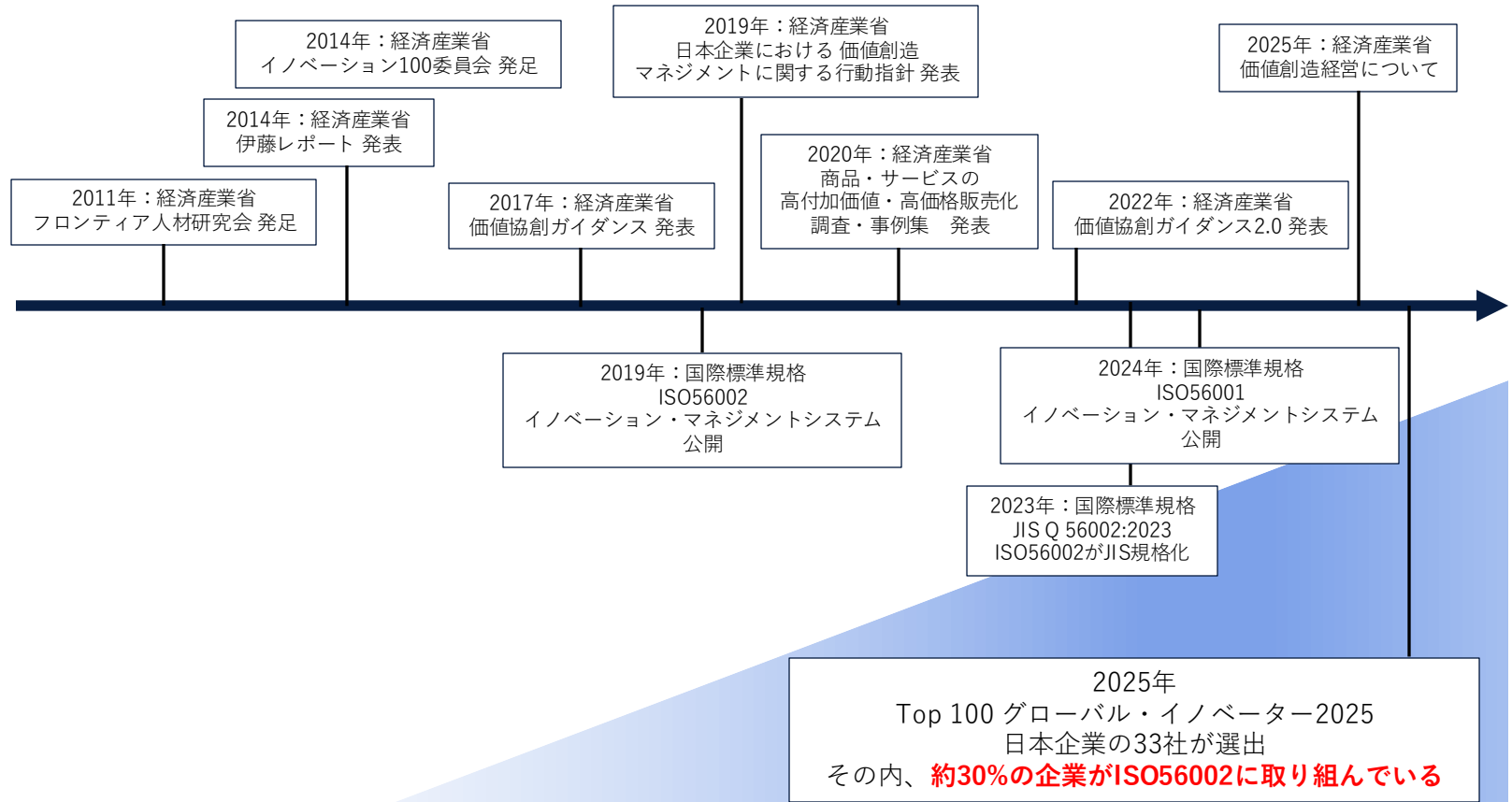
ISO56000とは

日本政府の動き

日本企業の動き

# 日本政府の動き

経済産業省では、2010年より日本の価値創造力の強化を模索し、2011年から活動を行っています。2018年に国際標準規格：ISO56002（イノベーション・マネジメントシステム：ガイダンス規格）が発表、2024年に国際標準規格：ISO56001（イノベーション・マネジメントシステム：マネジメント規格）が発表されました。経済産業省からの発表には、ISO56000シリーズを引用したイノベーションへの取り組みが要求されています。



33社中、23社（約82%）が価値創造の要素であるISO56002、アジャイル手法、ナレッジ管理などについて、当社に相談がありました。

日本の価値創造

ISO56000とは

日本政府の動き

日本企業の動き

# 日本政府の動き

## 日本政府の動向

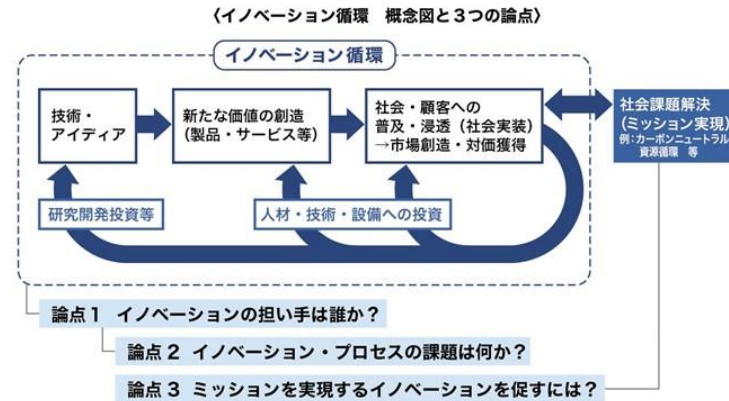
2011年10月に経済産業省が発足した「フロンティア人材研究会」から始まり、2014年には「イノベーション・マネジメントシステム100委員会」が設立された。

2018年には「省庁横断的プロジェクト「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）」を発表。

その後も政策発表が行われ、2020年以降

- ・ イノベーション創出に向けた経済産業省の取組
- ・ イノベーションを生み出す企業経営と市場創出について
- ・ イノベーション循環の実現に向けた政策の方向性
- ・ イノベーション創出のための学びと社会連携推進に関する研究会 報告書-共助により**価値創造人材の育成**を支える環境の構築に向けてなどが発表されている。

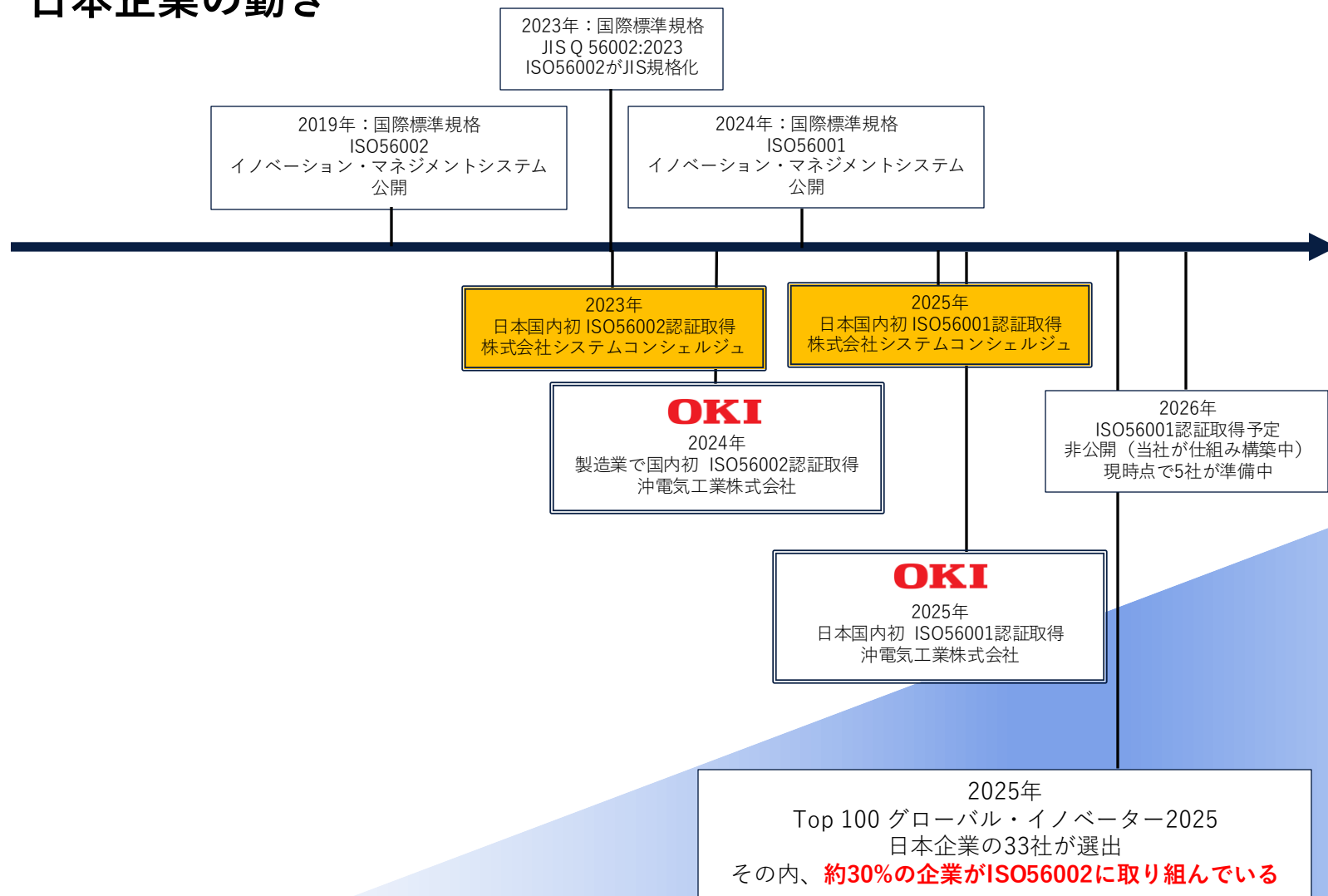
政府発表の「企業と投資家の対話のための「価値協創ガイダンス 2.0 - サステナビリティ・トランスフォーメーション（SX）実現のための価値創造ストーリーの協創」も公開され、多くの上場企業が「価値協創ガイダンス2.0」を参考に投資家向けのレポートを公開している。



経済産業省イノベーション循環が新たな価値を生み、持続可能な産業を創る  
<https://www.meti.go.jp/press/2023/06/20230602007/20230602007.html>

[https://www.meti.go.jp/policy/economy/keiei\\_innovation/kigyoukaikai/ESGuidance.html](https://www.meti.go.jp/policy/economy/keiei_innovation/kigyoukaikai/ESGuidance.html)

# 日本企業の動き



33社中、23社（約82%）が価値創造の要素であるISO56002、アジャイル手法、ナレッジ管理などについて、当社に相談がありました。

日本の価値創造

ISO56000とは

日本政府の動き

日本企業の動き

# 日本企業の動き

日本の価値創造

ISO56000とは

日本政府の動き

日本企業の動き



# 日本企業の動き

日本の価値創造

ISO56000とは

日本政府の動き

日本企業の動き



会社紹介

自己紹介

本セミナーの目的

イノベーションの仕組みについて

日本の価値創造

ISO56001の実践

利用ツール

当社のサービス

## 1.適用範囲

ISO56001に適用するためには、適用範囲を定める必要があります。  
その理由は、範囲を定めることにより、意図、方針、戦略の立案がしやすく、また伝わりやすくなるからです。  
範囲を明確にしない場合、正しく伝わらず、想定価値の実現がブレる可能性があります。

- 1.適用範囲
- 2.引用規格
- 3.用語及び定義
- 4.組織の状況
- 5.リーダーシップ
- 6.計画

| ISO56001 – 要求事項   | 株式会社システムコンシェルジュのコメント  |
|---|---|
| <p>この規格は、イノベーションに関する組織の能力を高め、その成果を証明し、イノベーションの成果を向上させることで、ユーザー・顧客・その他の利害関係者に価値を提供するための「イノベーション管理システム」の要件を定めています。特定の業種や規模に限定されたものではなく、どのような組織にも当てはまるように、汎用的に設計されています。そのため、組織の種類、提供している製品・サービス、イノベーションのタイプや手法に関わらず、すべての組織に適用可能です。</p> | <p>適用範囲の条項にて範囲を明確にします。<br/>範囲とは、「対象組織」、「事業」または「製品・サービス」、「新しい価値」または「価値の維持・向上」などを指します。原則は、組織と事業名などを目的として定義するのが望ましい。</p> |

- 1.適用範囲
- 2.引用規格
- 3.用語及び定義
- 4.組織の状況
- 5.リーダーシップ
- 6.計画

## 2.引用規格

| ISO56001 – 要求事項  | 株式会社システムコンシェルジュのコメント                                  |
|--|---|
| 次の文書は、その内容の一部又は全部がこの文書の要求事項を構成するような方法で本文中に引用されている。<br>発行年の付いた引用については、引用の版だけを適用する。<br>発行年のない引用については、引用文書の最新版を(全ての追補も含めて)適用する。 | ISO56001の要求事項を参考に仕組みを構築するため、何の規格を参考にしたのか明確にする必要があります。 |

### (1) 適用規格

ISO56001 : 2024 イノベーション・マネジメントシステム – 要求事項

### (2) 引用規格

ISO56000 : 2020 イノベーション・マネジメントシステム – 基本及び用語

- 1.適用範囲
- 2.引用規格
- 3.用語及び定義
- 4.組織の状況
- 5.リーダーシップ
- 6.計画

## 3.用語及び定義

用語及び定義があれば記入する

| ISO56001 – 要求事項   | 株式会社システムコンシェルジュのコメント   |
|---|--|
| <p>この規格で用いる主な用語及び定義は、次によるほか、ISO 56000 による。</p> <p>ISO 及びIEC は、標準化に使用するための用語のデータベースを次のアドレスに維持している：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>– ISO オンラインブラウジングプラットフォーム：<br/><a href="https://www.iso.org/obp">https://www.iso.org/obp</a></li> <li>– IEC エレクトロペディア：<a href="https://www.electropedia.org/">https://www.electropedia.org/</a></li> </ul> | <p>前述の引用規格により、ISO56000シリーズの用語定義は行われていますが、組織独自の用語について齟齬が起こらないように明確にする必要があります。参考までに次のように記載します。</p> |

本IMSマニュアルで使用する用語の定義はISO56000:2020によるほか、当社独自で使用する用語の定義については以下に定める。

### 3.1 ISO56000:2020 規格での用語及び定義

この規格で用いる主な用語及び定義は、次によるほか、ISO 56000 による。

ISO 及びIEC は、標準化に使用するための用語のデータベースを次のアドレスに維持している

- ISO オンラインブラウジングプラットフォーム：<https://www.iso.org/obp>
- IEC エレクトロペディア：<https://www.electropedia.org/>

### 3.2 当組織での用語及び定義

| 用語            | 定義                                 |
|---------------|------------------------------------|
| トップマネジメント     | 当社のIMSにおける最高イノベーション責任者または経営者のことをいう |
| IMS責任者        | 当社のIMSにおける管理責任者のことをいう              |
| IMS推進者またはリーダー | 当社のIMSにおける推進リーダーのことをいう             |
| IMS推進メンバー     | 当社のIMSにおける推進メンバーのことをいう             |
| IMSアンバサダー     | 当社のIMSにおける協力者のことをいう                |
|               |                                    |
|               |                                    |

- 1.適用範囲
- 2.引用規格
- 3.用語及び定義
- 4.組織の状況
- 5.リーダーシップ
- 6.計画

## 4.組織の状況

方法、実施者、承認者、文書名などを決定する

### 4.1 組織及びその状況の理解

| ISO56001 – 要求事項   | 株式会社システムコンシェルジュのコメント   |
|---|--|
| <p>組織は次のことを決定するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a.組織の目的に関連し、IMSの意図した結果の達成に影響を及ぼす外部および内部の課題</li> <li>b.気候変動に関連する課題</li> <li>c.価値創出の可能性のある機会領域</li> </ul> <p>注1：課題は、組織に対して正または負の影響を与える可能性があり、過去の経験、現在の状況、将来の予測に関連することがあります。</p> <p>注2：外部の課題は、例えば政治的、経済的、市場的、社会的、技術的、法的、規制の、規格、環境的、倫理的要因に関連しており、地域的、国内的、国際的なものが含まれます。</p> <p>注3：内部の課題は、例えば組織のビジョン、ミッション、価値観、文化、財務、人材、慣行、価値創出モデル、能力、資源、ガバナンス、実績などに関連します。</p> | <p>適用範囲で定義した事項に影響を与える情報や課題について定義します。要求事項を満たした情報を収集し、状況を理解するための条項となります。</p> <p>プロセスとしては、収集した情報や課題は課題管理表に記載し、関係者へ周知する。管理表への記載は、情報ソースなどの分類を行うことが望ましい。</p> |

## 4.組織の状況

方法、実施者、承認者、文書名などを決定する

### 4.2 利害関係者のニーズ及び期待の理解

| ISO56001 – 要求事項  | 株式会社システムコンシェルジュのコメント   |
|--|--|
| <p>組織は次の事項を決定しなければならない。</p> <p>a) 機会が存在する分野，及びイノベーション・マネジメントシステムに関係する，現時点及び潜在的な，内部及び外部の利害関係者</p> <p>b) これらの利害関係者の現在及び予想される，関連するニーズ，期待，及び要求事項</p> <p>c) これらのニーズ，期待，及び要求事項の中で，イノベーション・マネジメントシステムを通じて取り組むもの</p> <p>注記1<br/>ニーズ及び期待は明示的又は暗黙的な場合がある。</p> <p>注記2<br/>関連する利害関係者は，気候変動，環境及び社会的な影響，ガバナンス及び倫理に関連する要求事項をもっている場合がある。組織の状況を把握するために当社のすべての部門および外部ベンダーに対して協力を要請する。</p> <p>注記3<br/>利害関係者は，例えば，利用者，顧客，パートナー，供給者，競争相手，団体，学会，規制当局，官庁，従業員，オーナー及び投資家が含まれる場合がある。</p> | <p>「4.1組織及びその状況の理解」において、利害関係者からの課題についても記載が行われているため、本項ではそのように明記することが必要となります。</p> <p>(できればあったほうが良い事項)</p> <p>利害関係者についても、定義が必要です。</p> <p>IMSに関する内部及び外部の利害関係者の一覧表または相当する明確にするための情報が必要になります。</p> <p>QMSやIMSの審査では、利害関係者目録（もしくは一覧表）のような明確な定義及び文書の作成は求められない場合が多い。</p> <p>「3.用語の定義」において利害関係者について説明&amp;定義されていれば問題ありません。</p> |

- 1.適用範囲
- 2.引用規格
- 3.用語及び定義
- 4.組織の状況
- 5.リーダーシップ
- 6.計画

## 4.組織の状況

方法、実施者、承認者、文書名などを決定する

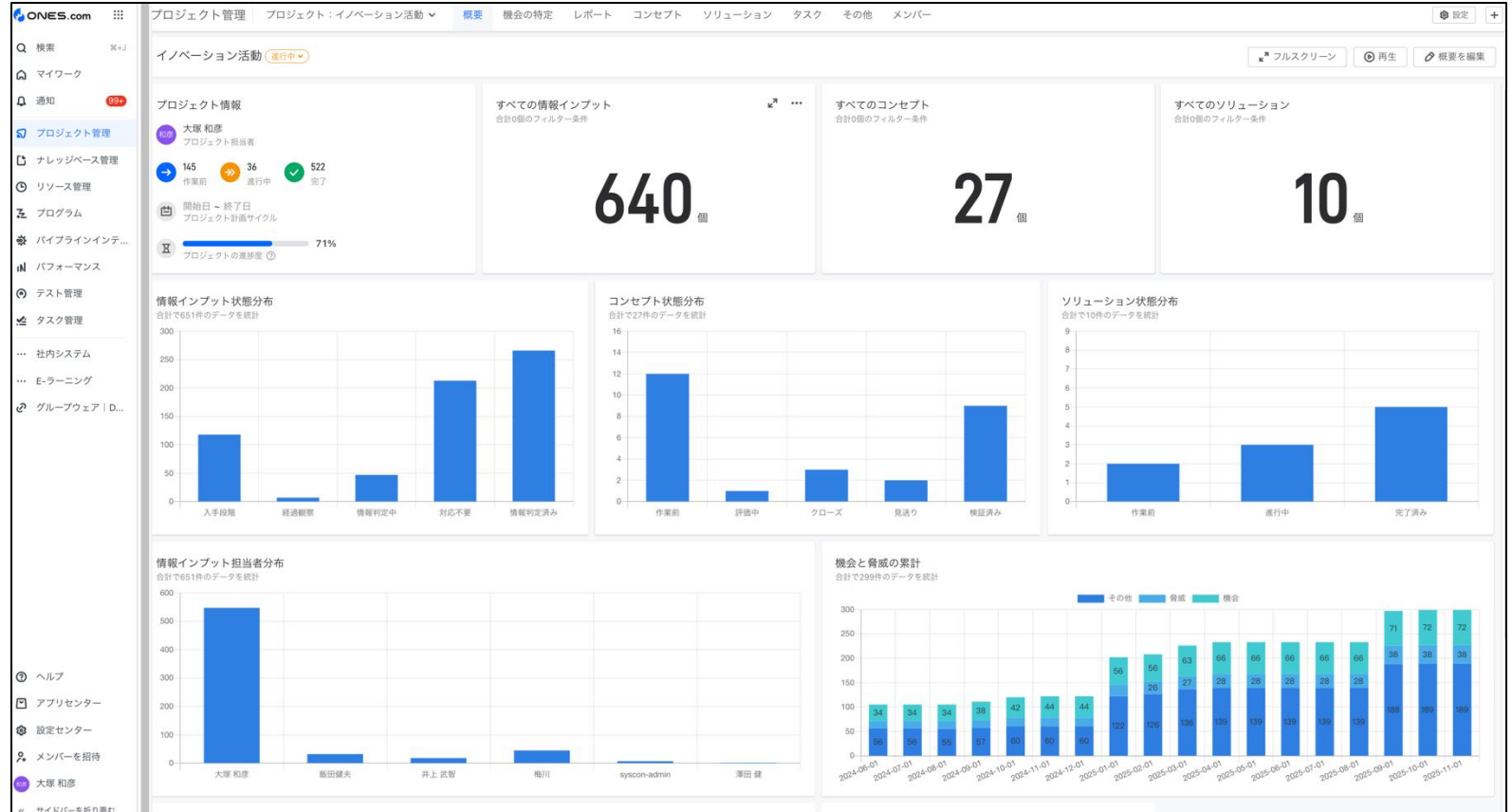
当組織は、●●●●部門において、当組織の目的及び戦略的な方向性に関連し、IMSの意図した成果を達成する能力に影響を与える外部及び内部の課題を収集するための情報収集方法を決定し、実行し、記録文書にまとめ、関係者へ周知する。

|         |  |
|---------|--|
| 管理施策    | 実施者は、●●●●に定める方法により、情報収集を行い、▲▲▲▲の方法を用いて「機会とリスク」または課題を特定し、関係者へ周知する |
| ツール及び方法 | 情報収集方法：（説明）<br>機会とリスクの特定方法：（説明）                                  |
| 実施時期    | 年一回<br>IMS責任者、またはトップマネジメントが必要と判断した場合(●●営業日以内に実施)                 |
| 役割及び担当者 | 実施者：●●●●部門 責任者<br>承認者：トップマネジメント                                  |
| 文書名     | 月次レポート   |

- 1.適用範囲
- 2.引用規格
- 3.用語及び定義
- 4.組織の状況
- 5.リーダーシップ
- 6.計画

## 4.組織の状況

方法、実施者、承認者、文書名などを決定する



## 4.組織の状況

方法、実施者、承認者、文書名などを決定する

- 1.適用範囲
- 2.引用規格
- 3.用語及び定義
- 4.組織の状況
- 5.リーダーシップ
- 6.計画

The screenshot displays the ONES.com project management interface. The main content area shows a document entry with the following details:

- Document Title:** 生成AIの個人利用は日本26%、米国・中国に後れ 情報通信白書
- Field Information:**
  - 担当者: 大塚 和彦
  - ステータス: 情報判定済み
  - 優先度: 普通
  - IMS | 情報ソース: 新聞・インターネットニュースなど
  - IMS | 情報分類: 情報
  - IMS | URL: <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA045CP0U5A700C2000...>
  - 期限日: 2025-07-09
  - IMS | 大分類: 外部
  - IMS | 対象事業: その他事業
  - IMS | 情報カテゴリ: 外部 | 社会・文化
  - IMS | 影響度: 0.影響度は判断できない
  - IMS | 影響分類: 其他 (dropdown menu open with options: 機会, 脅威, その他)
  - IMS | 情報発生時期: 0) 影響が発生する時期は不明
  - IMS | 情報判定日: 2025-07-16
  - IMS | 情報判定理由: 知識ベースへ保存
  - IMS | 情報判定中-滞在回数: 0
  - 情報判定中-滞在時間: 0分
  - 進行中-頻度: 0
- Basic Information:**
  - プロジェクト: イノベーション活動
  - 課題タイプ: 情報インプット
  - 作成者: 大塚 和彦
  - 作成日時: 2025-09-14 12:19:54
  - 更新日時: 2025-11-04 19:08:59

- 1.適用範囲
- 2.引用規格
- 3.用語及び定義
- 4.組織の状況
- 5.リーダーシップ
- 6.計画

## 4.組織の状況

### 4.3 イノベーション・マネジメントシステムの適用範囲の決定

当組織は、「4.1 組織及びその状況の理解」および「4.2利害関係者のニーズ及び期待の理解」の要求事項を考慮して「イノベーションの意図」を次のように定義し、「組織の製品及びサービス」を考慮し、その境界及び適用可能性を、以下のように決定する。

#### 4.3.1 イノベーションの意図

| ISO56001 – 要求事項  | 株式会社システムコンシェルジュのコメント  |
|--|---|
| <p>組織は、機会が存在する分野、利害関係者のニーズ、期待、及び要求事項を考慮して、イノベーションの意図を決定しなければならない。</p> <p>イノベーションの意図は、文書化した情報として利用可能でなければならない。</p> <p>注記 イノベーションの意図は、イノベーション活動が組織の目的及び戦略的な方向性にどのように貢献できるかについての願望を表すものである。それは、機会の存在する分野でどのような価値が実現されるかについてのシナリオを含む場合がある。</p> | <p>イノベーションの意図とは、組織が「どのような方向性で」「どの領域において」「どの程度の野心を持って」イノベーションを実現しようとするかを示す意思表示です。</p> <p>イノベーションの意図は、経営理念や経営方針をそのまま流用する場合があります。</p> <p>つまり組織の理念、ビジョンや使命と整合しつつ、イノベーション活動の範囲や重点領域を方向づけ、その後の「イノベーション方針」「イノベーションの戦略」を決めるための基礎がイノベーションの意図になります。</p> <p>ISO 56001の管理レベル図において、イノベーションの意図は「イノベーション・マネジメントシステムの適用範囲を決定する」ための起点としても位置づけられています。</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> </div> |

- 1.適用範囲
- 2.引用規格
- 3.用語及び定義
- 4.組織の状況
- 5.リーダーシップ
- 6.計画

## 5.リーダーシップ

イノベーションを起こしやすい環境を構築するためには、トップマネジメントの意思、決意を関係者全体へ示し、認知させることが必要不可欠な重要な要素です。この項ではトップマネジメントが行うべき、決めるべき要求事項を説明しています。

### 5.1リーダーシップ及びコミットメント

#### 5.1.1 概論

| ISO56001 – 要求事項  | 株式会社システムコンシェルジュのコメント  |
|--|---|
| <p>トップマネジメントは、次に示す事項によって、イノベーション・マネジメントシステムに関するリーダーシップ及びコミットメントを実証しなければならない。</p> <p>a) イノベーション・マネジメントシステムの有効性及び効率性に説明責任を負うこと</p> <p>b) イノベーションの意図、方針、戦略及び目標を確立し、それらが組織の戦略的方向性と整合していることを確実にすること</p> <p>c) イノベーション・マネジメントシステムの要求事項を組織構造及びビジネスプロセスに統合することを確実にすること</p> <p>d) イノベーション・マネジメントシステムに必要な経営資源が利用可能であることを確実にすること</p> <p>e) 有効なイノベーション・マネジメント及びイノベーション・マネジメントシステムの要求事項への適合の重要性を伝達すること</p> <p>f) イノベーション・マネジメントシステムがその意図した結果を達成することを確実にすること</p> <p>g) イノベーション・マネジメントシステムの有効性が高まるよう人々を積極的に参加させ、指揮し、権限を与え、支援すること</p> <p>h) 持続的な改善を推進すること</p> <p>i) その責任の領域に適用される場面で、全ての階層及び他の関連する役割においてリーダーがリーダーシップ及びコミットメントを実証するよう奨励及び支援すること</p> <p>注記：本文書における「ビジネス」という表現は、組織の存在目的にとって中核となる活動を広く意味するものとして解釈できます。</p> | <p>本要求事項は、（イノベーションの意図や方針などではなく）IMSに関するリーダーシップとコミットメントを行うことです。</p> <p>トップマネジメントがやるべきことは「方針を示す」「仕組みに組み込む」「資源を確保する」「人を動かす」「改善を続ける」です。</p> <p>つまり、経営層が自ら旗を振り、仕組みを本業に統合し、結果に責任を持つことが具体的な行動となります。</p> <p>マネジメント側が行うべき実務例は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明責任を果たす <ul style="list-style-type: none"> <li>- IMSの成果（KPI、ROI、新事業件数など）を経営層が自ら報告できる体制を整える。</li> <li>- 定期的に取り締り役会や経営会議でIMSの進捗をレビューする。</li> </ul> </li> <li>・方針・戦略・目標を明確にする <ul style="list-style-type: none"> <li>- イノベーションの意図（どの方向で革新を目指すか）を経営層が策定する。</li> <li>- それに基づき、イノベーション方針・戦略・具体目標を文書化し、全社に展開する。</li> </ul> </li> <li>・ビジネスプロセスに組み込む <ul style="list-style-type: none"> <li>- IMSを事業計画や日常業務に組み込み、別物にしない。</li> <li>- 例：R&amp;D会議に「機会の特定」や「コンセプト検証」の進捗を必ず含める。</li> </ul> </li> <li>・経営資源を確保する <ul style="list-style-type: none"> <li>- 予算、人材、時間、ツールなどの資源確保を確実にする。つまりリソース不足（本業が忙しいなど）を理由に形骸化しないようにする。</li> </ul> </li> </ul> |

- 1.適用範囲
- 2.引用規格
- 3.用語及び定義
- 4.組織の状況
- 5.リーダーシップ
- 6.計画

## 5.リーダーシップ

イノベーションを起こしやすい環境を構築するためには、トップマネジメントの意思、決意を関係者全体へ示し、認知させることが必要不可欠な重要な要素です。この項ではトップマネジメントが行うべき、決めるべき要求事項を説明しています。

### 5.1リーダーシップ及びコミットメント

#### 5.1.2 価値実現の重視

| ISO56001 – 要求事項   | 株式会社システムコンシェルジュのコメント  |
|---|---|
| <p>トップマネジメントは、次の事項を確実にすることによって、価値実現に関してリーダーシップ及びコミットメントを実証しなければならない。</p> <p>a) 財務的及び非財務的いずれにおいても、持続的な価値実現の重視が、イノベーション・マネジメントシステムの全体の目的として維持されていること</p> <p>b) 不確実な状況下で価値を実現することが可能なイノベーションのプロセスを導入すること</p> | <p>この項については、ISO56002では具体的に明記されていましたが、ISO56001では要求事項が曖昧な表現になりました。</p> <p>ISO56001の要求事項を素直に捉えれば、次の内容となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- IMS計画に財務的な価値を明記して目的として維持する</li> <li>- IMS計画に非財務的な価値を明記して目的として維持する</li> <li>- 不確実な状況下においても上記の価値実現が可能なプロセスを構築し、有効性を評価する</li> </ul> <p>つまりトップマネジメントは、売上や利益などの財務的価値のみを定義せず、非財務的な価値も定義し、それを測定しなければなりません。例えばサステナビリティに基づく指標（例えば、CO2削減量など）や顧客満足度、顧客年齢層に関する指標など、想定した価値が正しく実現できたのかを測定する必要があります。</p> <p>結果が出てから、良い結果だけ抜き出した後付けの価値実現とならない（結果オーライ）にならないために価値の定義を明確に定めることが重要です。</p> |

## 5.リーダーシップ

イノベーションを起こしやすい環境を構築するためには、トップマネジメントの意思、決意を関係者全体へ示し、認知させることが必要不可欠な重要な要素です。この項ではトップマネジメントが行うべき、決めるべき要求事項を説明しています。

### 5.1 リーダーシップ及びコミットメント

#### 5.1.3 チェンジマネジメント

当組織のトップマネジメントは、次の事項を考慮して、チェンジマネジメントに関してリーダーシップ及びコミットメントを実証する。

- イノベーションの成功を達成するために変革及び適応の必要性を決定すること
- 変革及び適応の重要性及び必要性について認識を高め、伝達すること
- 人々が変革に積極的に参加し、備え、適応できることを確実にすること

**注記** チェンジマネジメントは、イノベーション・マネジメントシステムの実施に関連する場合があります、イノベーションを展開する際に適用される場合があります。

|         |   |
|---------|---|
| 管理施策    | 価値実現の重視を行うにあたり、価値に影響を及びす変化を監視し、発見し、判断し、適応することを決定し、伝達する。 |
| ツール及び方法 | 監視および発見方法：●●●●<br>判断および決定方法：会議体：●●●●によって決定される。          |
| 実施時期    | 年一回<br>IMS責任者、またはトップマネジメントが必要と判断した場合(●●営業日以内に実施)        |
| 役割及び担当者 | 実施者：●●●●部門 責任者<br>承認者：トップマネジメント                         |
| 文書名     | (文書名)<br>議事録<br>変更要求依頼書 (仮名)                            |

- 1.適用範囲
- 2.引用規格
- 3.用語及び定義
- 4.組織の状況
- 5.リーダーシップ
- 6.計画

## 5.リーダーシップ

### 5.4 イノベーション文化

| ISO56001 – 要求事項   | 株式会社システムコンシェルジュのコメント   |
|---|--|
| <p>トップマネジメントは、次に示す事項によって、イノベーション活動を支援するために必要な組織文化を決定し、推進しなければならない。</p> <p>a) 組織の内部の状況を理解する一環として現状の組織文化を分析すること</p> <p>b) イノベーションの意図、方針、戦略を考慮すること</p> <p>c) 全ての階層のリーダーが、リーダーシップ及びコミットメントを実証し、ロールモデルとして行動することを奨励すること</p> <p>d) 力量開発、認識、関与及びコミュニケーションを必要に応じて確実に行うこと</p> <p>e) 次の特性を適切に考慮すること</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 創造性と実効的な活動の共存を可能にすること</li> <li>2) 変化への開放性、リスクを取る姿勢、協働及び共創</li> <li>3) 洞察の活用、利用者及び価値実現への注目</li> <li>4) 新しい知識及び力量を獲得するための探索及び実験</li> <li>5) 仮定及び確立済みの条件への問い</li> <li>6) 参加者の多様性及び異なる見解に対する尊重</li> <li>7) 仮説に基づく分析及び意思決定と、証拠に基づく分析及び意思決定とのバランス</li> <li>8) フィードバック及び継続的な学習の奨励</li> <li>9) 曖昧さ及び不確実性に取り組む能力</li> </ol> <p>注記 イノベーション文化をもつ組織は、多くの場合未来志向のリーダーを有する。彼らは、好奇心と勇気に駆り立てられ、目的を通じて動機付けを行い、新しい知識を探求することを促進し、コーチやメンターとして行動し、デザインや他の優れた実践を示し、成功や失敗から学ぶことを容易にし、イノベーターやチームを鼓舞し、力づけ、認識し、インセンティブを与える。</p> | <p>この要求事項には、複数の要素が含まれています。</p> <p>主要要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 意図、方針、戦略との整合性と組織への浸透と理解</li> <li>• 組織文化の測定と分析</li> <li>• 組織に所属する人的力量、意識、知識などの開発と測定</li> </ul> <p>そして、要素を考慮した組織の成熟度（測定指標）を把握するために、定期的に組織文化を測定しなければなりません。</p> <p>そのためには、IMSの適用範囲に関する関係者へ定期的にアンケート調査を行う必要があります。</p> <p>従業員へのアンケート調査（組織サーベイ）を行うサービスを利用してもよいですし、独自アンケートを行ってもよいです。</p> <p>株式会社システムコンシェルジュとしては前者を推奨しています。</p> <p style="text-align: center;"><b>BSI Kitemark（カイトマーク）認証審査の要件</b></p> <p>2. 組織は、イノベーション・プロジェクトまたはプロセス全体を通して、<b>（注）</b>向または第三者を通じて）文化がどのように根付いているかを定期的に評価しなければならない。</p> <p>この文化を根付かせる一環として、従業員自身の経験から学ぶことを確実にするために、ナレッジマネジメントを組み込む必要がある。</p> |

- 1.適用範囲
- 2.引用規格
- 3.用語及び定義
- 4.組織の状況
- 5.リーダーシップ
- 6.計画

## 5.リーダーシップ

### 5.4 イノベーション文化

#### イノベーション文化のアセスメント項目例

##### 心理的安全性 (Psychological Safety)

- 利害関係者（従業員など）は組織に情報提供やアイデア・意見ができること
- 失敗は学習資源として捉えること
- 異なる意見、批判的な意見でも歓迎されること

##### 開放性と多様性の尊重 (Openness & Diversity)

- 部門や役職に関係なく、誰の意見も平等に尊重されること
- 社内の多様な視点や経験が活かしていること
- 他部門との意見交換・交流・コラボレーションがあること

##### 協働と関係性 (Collaboration & Trust)

- 他部門の協力を得やすい環境になっていること
- チームメンバー間に信頼関係があること
- 目的を共有し、同じ目的に向かって協働していること

##### 学習と挑戦の志向 (Learning & Experimentation)

- 新しい挑戦が奨励されている。挑戦しやすいこと
- 失敗や成功の事例を共有し、学ぶ機会が提供されていること

##### 意思決定と裁量 (Empowerment)

- 従業員の提案をマネジメント陣営が真摯に受け止めていること
- 自分の役割・権限（裁量）が明確になっていること
- 各部門の機能、ミッション、目標・目的、役割が明確になっていること

##### 経営の支援とコミットメント (Leadership & Support)

- 経営層がイノベーションを重要視していること
- イノベーション活動に対して、必要な資源やリソースが提供されていること

##### 全体的な印象 (総合評価)

- 組織にイノベーションを生み出す文化があること
- 組織のなかで自分が積極的に挑戦できる文化があること

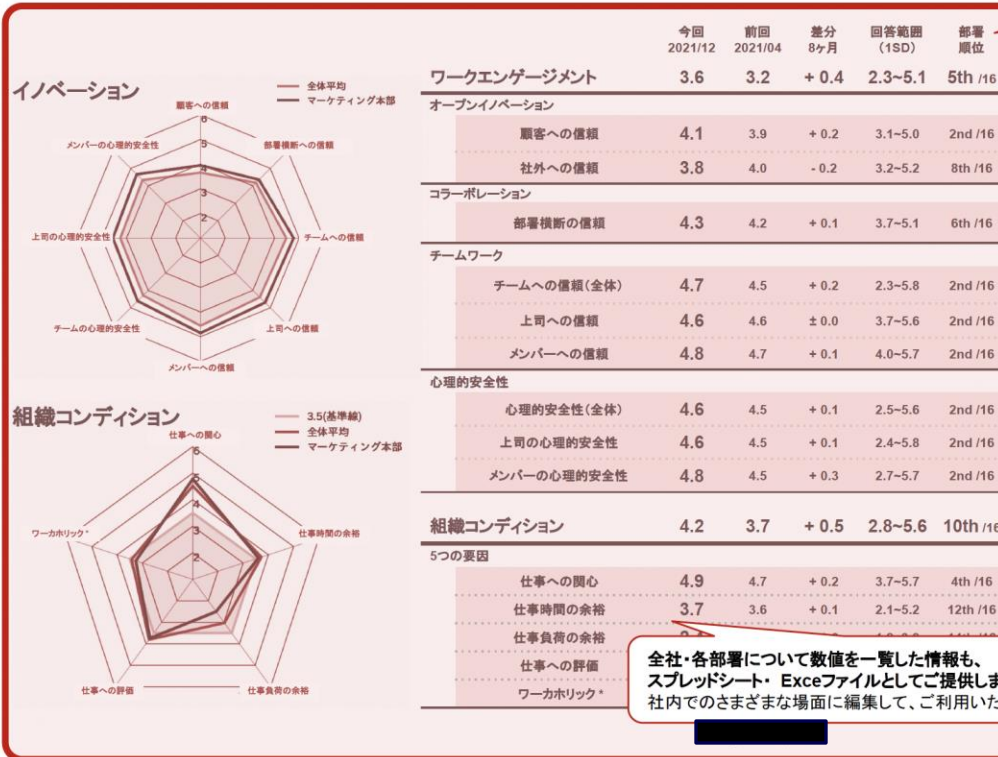
# 5.リーダーシップ

## 5.4 イノベーション文化

- 1.適用範囲
- 2.引用規格
- 3.用語及び定義
- 4.組織の状況
- 5.リーダーシップ
- 6.計画

### イノベーション・サーベイ | 全社・部署レポート

全社平均・部署ごとのイノベーション・レポート  
部署数+1(全社平均)のレポート数が発行されます。  
ビジュアルと数値で現状を把握。



**影響度とのびしろ**  
データに基づき当該部署がアプローチすべき  
指標を個別に算出。施策のアクションへつなげる組  
織診断サーベイを設計。

| 影響度の大きさ順(信頼度) | 今回<br>2021/12 | 前回  | 差分    |
|---------------|---------------|-----|-------|
| 1 部署横断への信頼    | 4.3           | 4.2 | + 0.1 |
| 2 顧客への信頼      | 3.8           | 4.0 | - 0.2 |
| 3 社外への信頼      | 3.8           | 4.0 | - 0.2 |
| 4 上司への信頼      | 4.6           | 4.6 | ± 0.0 |
| 5 メンバーへの信頼    | 4.8           | 4.7 | + 0.1 |

| のびしろ順(心理的安全性詳細項目) | 今回<br>2021/12 | 前回  | 差分    |
|-------------------|---------------|-----|-------|
| 1 リスク回避           | 4.2           | 4.6 | + 0.2 |
| 2 役割期待            | 4.3           | 4.1 | + 0.4 |
| 3 支援              | 4.7           | 4.5 | + 0.2 |
| 4 尊重              | 4.8           | 4.8 | ± 0.0 |
| 5 受容              | 4.8           | 4.8 | ± 0.0 |

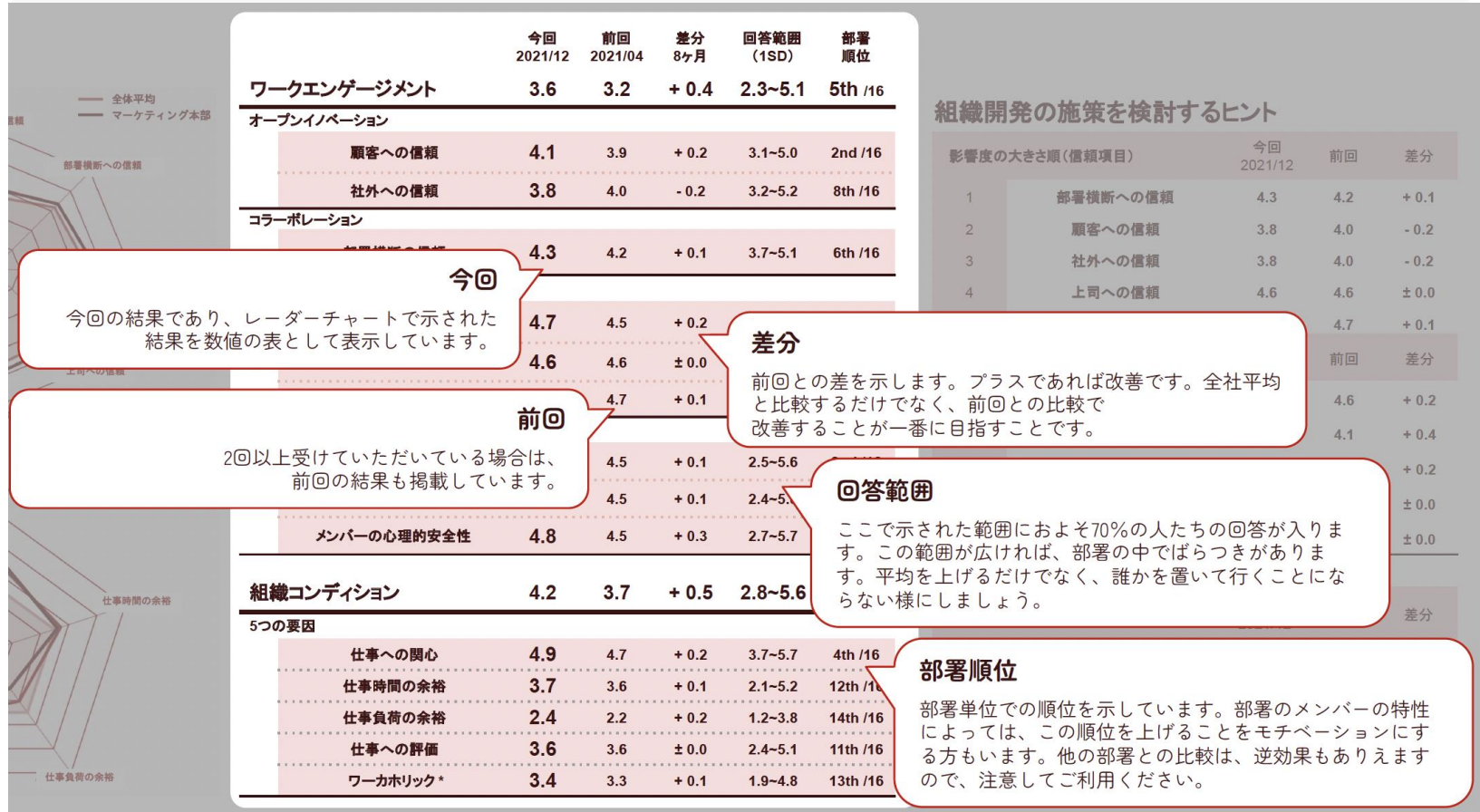
全社・各部署について数値を一覧した情報も、  
スプレッドシート・Exceファイルとしてご提供します  
社内でのさまざまな場面に編集して、ご利用いただけます。



- 1.適用範囲
- 2.引用規格
- 3.用語及び定義
- 4.組織の状況
- 5.リーダーシップ
- 6.計画

## 5.リーダーシップ

### 5.4 イノベーション文化



- 1.適用範囲
- 2.引用規格
- 3.用語及び定義
- 4.組織の状況
- 5.リーダーシップ
- 6.計画

## 5.リーダーシップ

### 5.4 イノベーション文化

#### 組織開発の施策を検討するヒント

組織を測るだけでは、組織は良くなりません。データ分析から実際の施策のヒントとなる情報を表にしました。

#### 影響度の大きさ順（信頼項目）

イノベーション指標である5つの信頼（顧客、社外、部署横断、上司、メンバー）について、ワークエンゲージメントへの影響を順位で示しました。各項目が1だけ上がった時のワークエンゲージメントの上昇幅は異なり、順位が上にある項目ほど、ワークエンゲージメントは大きく上昇します。優先順位の高い施策にもなるかもしれません。

この例では、部署横断の値が上昇すると、ワークエンゲージメントが大きく上昇します。表にある「今回」「前回」「差分」の値は、先ほど示した真ん中の表にある値と同じです。

#### のびしろ順（心理的安全性 詳細項目）

心理的安全性は5つの詳細項目に分かれます（支援、尊重、受容、役割期待、リスク回避）。この5つについて、小さい値を持つ項目を上から順に並べています。小さい値ほど、伸ばせる余地も大きいので、施策として取り組む優先順位があがるかもしれません。

#### 影響度の大きさ順（ストレス要因）

組織コンディションを上げる要因にあがる5つの影響について、順位を示しました。信頼項目と同様、順位が上の方にある項目ほど、組織コンディションを変化させることができます。

この例では、仕事負荷の余裕の数値が上がると、組織コンディションの値が大きく変わります。仕事の負荷の余裕は、影響度が大きいだけでなく、「今回」の値が2.4と小さくのびしろも大きいので、高い優先順位となります。

#### 組織開発の施策を検討するヒント

| 影響度の大きさ順（信頼項目）    |          | 今回<br>2021/12 | 前回  | 差分    |
|-------------------|----------|---------------|-----|-------|
| 1                 | 部署横断への信頼 | 4.3           | 4.2 | + 0.1 |
| 2                 | 顧客への信頼   | 3.8           | 4.0 | - 0.2 |
| 3                 | 社外への信頼   | 3.8           | 4.0 | - 0.2 |
| 4                 | 上司への信頼   | 4.6           | 4.6 | ± 0.0 |
| 5                 | メンバーへの信頼 | 4.8           | 4.7 | + 0.1 |
| のびしろ順（心理的安全性詳細項目） |          | 今回<br>2021/12 | 前回  | 差分    |
| 1                 | リスク回避    | 4.2           | 4.6 | + 0.2 |
| 2                 | 役割期待     | 4.3           | 4.1 | + 0.4 |
| 3                 | 支援       | 4.7           | 4.5 | + 0.2 |
| 4                 | 尊重       | 4.8           | 4.8 | ± 0.0 |
| 5                 | 受容       | 4.8           | 4.8 | ± 0.0 |
| 影響度の大きさ順（ストレス要因）  |          | 今回<br>2021/12 | 前回  | 差分    |
| 1                 | 仕事負荷の余裕  | 2.4           | 2.2 | + 0.2 |
| 2                 | 仕事への関心   | 4.9           | 4.7 | + 0.2 |
| 3                 | ワーカホリック* | 3.4           | 3.3 | + 0.1 |
| 4                 | 仕事への評価   | 3.6           | 3.6 | ± 0.0 |
| 5                 | 仕事時間の余裕  | 3.7           | 3.6 | + 0.1 |

- 1.適用範囲
- 2.引用規格
- 3.用語及び定義
- 4.組織の状況
- 5.リーダーシップ
- 6.計画

## 6.計画

### 6.2 イノベーションの目標及びそれを達成するための計画策定

#### 6.2.1 イノベーションの目標

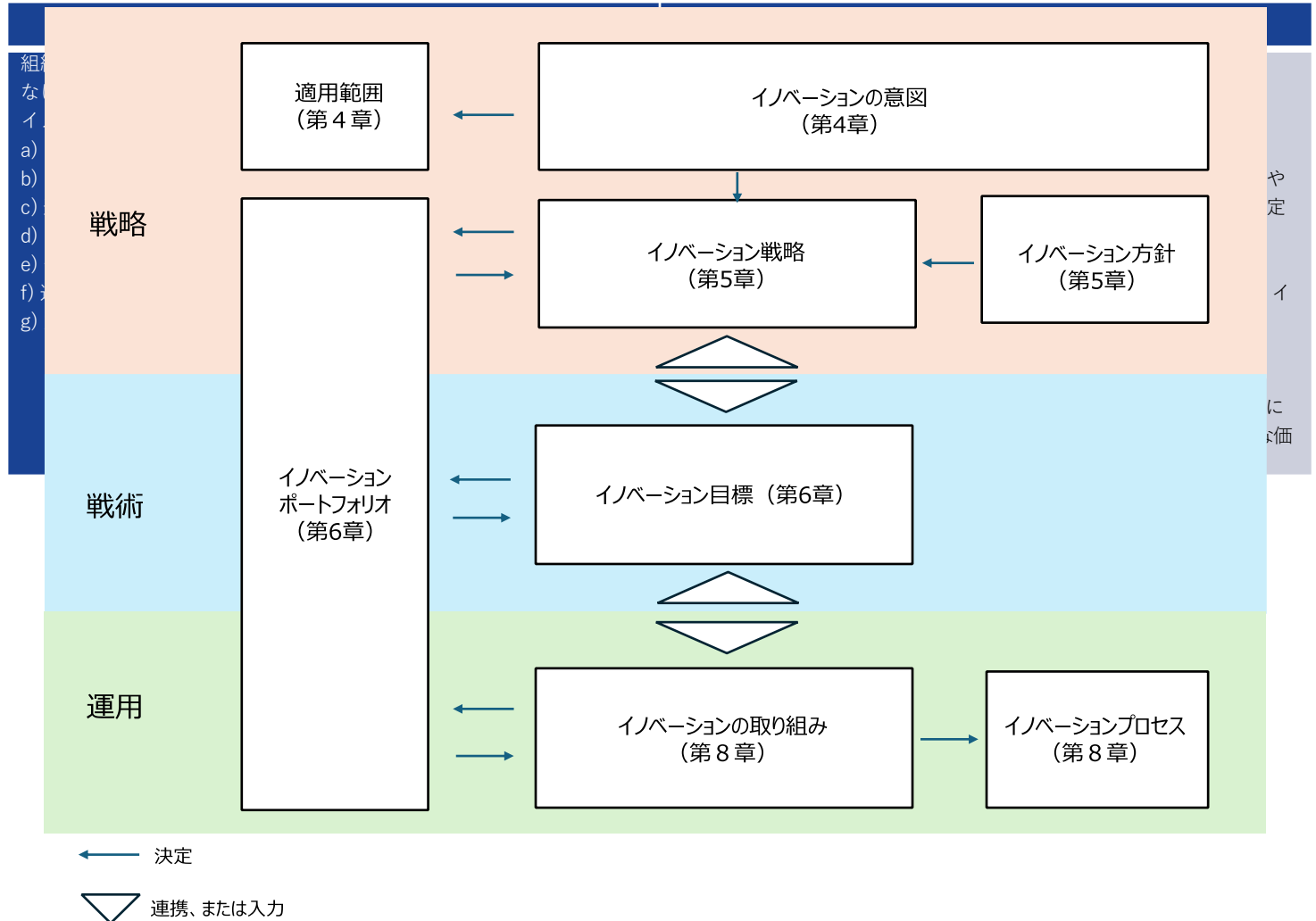
| ISO56001 – 要求事項  | 株式会社システムコンシェルジュのコメント   |
|--|--|
| <p>組織は、適切な職務及び階層において、イノベーションの目標を確立しなければならない。</p> <p>イノベーションの目標は、次の事項を満たさなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a) イノベーションの方針及び戦略と整合している。</li> <li>b) (実行可能な場合)測定可能である。</li> <li>c) 適用される要求事項を考慮に入れる。</li> <li>d) モニタリングする。</li> <li>e) 伝達され、理解されている。</li> <li>f) 適切なタイミングで更新されている。</li> <li>g) 文書化した情報として利用可能である。</li> </ul> | <p>戦略は短期的なものあれば、中長期なものも存在します。</p> <p>中期的な戦略に対しては、イノベーションの目標（計画）はマイルストーンのように短期的および中期的な計画を策定してください。</p> <p>戦略に対する目標は、測定可能な目標数値を設定し、いつまでに何をやるのかなど具体的な行動を示し、測定・モニタリングを行う計画を設定するものです。</p> <p>「イノベーションの計画」には「5.2 イノベーションの方針」と「5.3 イノベーションの戦略」との整合性を確保する必要があります。</p> <p style="text-align: center;"><b>BSI Kitemark（カイトマーク）認証審査の要件</b></p> <p>現時点のBSI Kitemark（カイトマーク）認証審査の要件を満たすためには、目標を「5.1.2 価値実現の重視」に整合し、</p> |

- 1.適用範囲
- 2.引用規格
- 3.用語及び定義
- 4.組織の状況
- 5.リーダーシップ
- 6.計画

## 6.計画

### 6.2 イノベーションの目標及びそれを達成するための計画策定

#### 6.2.1 イノベーションの目標



## 7.支援体制

### 7.1.6 知識

| ISO56001 – 要求事項  | 株式会社システムコンシェルジュのコメント   |
|--|--|
| <p>組織は、イノベーション・マネジメントシステムの効果的な実施のために必要な知識をマネジメントする手法を確立するとともに、次の事項を考慮しなければならない。</p> <p>a) 外部又は内部、暗黙的又は明示的であろうとなかろうと、適切な知識を特定し、獲得し、分類し、保管し、共有し、活用すること</p> <p>b) 成功及び失敗を含む、過去及び現在のイノベーション活動から得られた知識を活用すること</p> <p>c) 多方面の多様な情報源から、現在及び潜在的な将来のイノベーション活動に関連した新しい分野の知識を獲得すること</p> <p>d) 機密性のレベル及び手段</p> | <p>ナレッジ管理ツールなどのITツールやサービスの導入を行えば、とても簡単にクリアできる要求事項です。</p> <p>文書として要件を満たすとすると制度設計による仕組み化が必要になります。</p> <p>a) 外部又は内部、暗黙的又は明示的であろうとなかろうと、適切な知識を特定し、獲得し、分類し、保護し、共有し、活用すること</p> <p>-----</p> <p>この要求事項は、ナレッジマネジメントそのものを指します。ISO30401レベルまでは要求しておりませんが、例としては次のようになります。</p> <p>①知識を獲得する：会議体での議事録や報告書など、ナレッジとして特定できる情報を作成する</p> <p>②分類する：獲得したナレッジを分類（フォルダ分け、属性付け、公開範囲など）</p> <p>③保護する：保管・保存を行う</p> <p>④共有する：検索などによる利用可能な状態にする</p> <p>⑤活用する：アクセス数など活用の分析ができること</p> <p>①～⑤に関しては、ナレッジ管理ツールで大幅に簡素化してくれます。</p> <p>-----</p> <p>b) 成功及び失敗を含む、過去及び現在のイノベーション活動から得られた知識を活用すること</p> <p>-----</p> <p>イノベーション・プロジェクトの報告書をa)の管理プロセスに合わせて管理する</p> <p>-----</p> <p>c) 多方面の多様な情報源から、現在及び潜在的な将来のイノベーション活動に関連した新しい分野の知識を獲得すること</p> <p>-----</p> <p>知識を獲得するための情報源やイノベーションプロセス方法を明確にして、a)の管理プロセスに合わせて管理する</p> <p>-----</p> <p>d) 機密性のレベル及び手段</p> <p>a)の管理プロセスに基づき、適切なアクセス権限を付与します。</p> |

## 7.支援体制

### 7.1.2 人材

### 7.1.3 時間

### 7.1.4 財務

### 7.1.5 インフラストラクチャ

### 7.1.6 知識

### 7.1.7 知的財産

### 7.1.8 ツール&方法

## 7.2 力量

## 7.3 認識

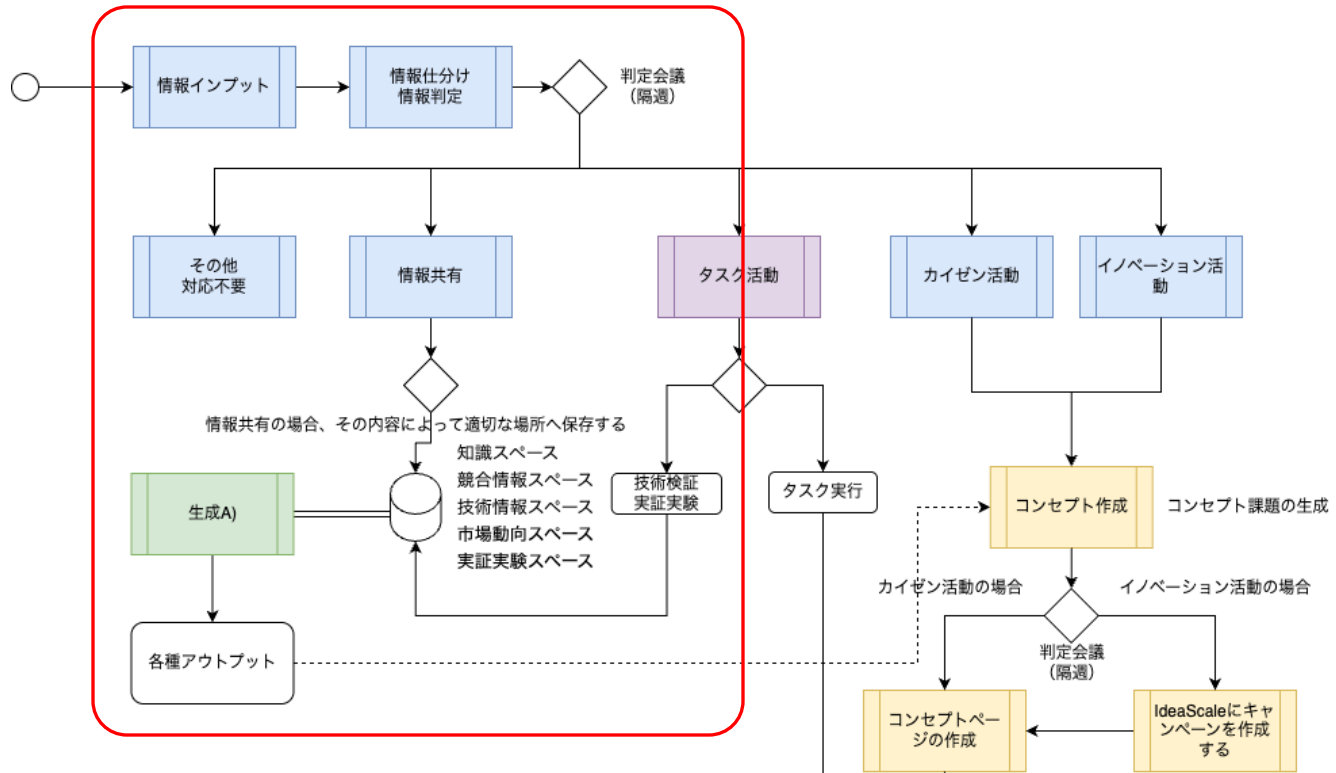
## 7.4 コミュニケーション

## 7.5 文書化した情報

# 7.支援体制

## 7.1.6 知識

= 情報インプット  
  = コンセプト  
  = ソリューション  
  = 単一部門または個人タスク



### 7.支援体制

- 7.1.2 人材
- 7.1.3 時間
- 7.1.4 財務
- 7.1.5 インフラストラクチャ
- 7.1.6 知識
- 7.1.7 知的財産
- 7.1.8 ツール&方法

### 7.2 力量

### 7.3 認識

### 7.4 コミュニケーション

### 7.5 文書化した情報

## 7.支援体制

- 7.1.2 人材
- 7.1.3 時間
- 7.1.4 財務
- 7.1.5 インフラストラクチャ
- 7.1.6 知識
- 7.1.7 知的財産
- 7.1.8 ツール&方法
- 7.2 力量
- 7.3 認識
- 7.4 コミュニケーション
- 7.5 文書化した情報

## 7.支援体制

## 7.1.6 知識

| ISO56001 – 要求事項   | 株式会社システムコンシェルジュのコメント  |
|---|---|
| <p>組織は、イノベーション・マネジメントシステムの効果的な実施のために必要な知識をマネジメントする手法を確立するとともに、次の事項を考慮しなければならない。</p> <p>a) 外部又は内部、暗黙的又は明示的であろうとなかろうと、適切な知識を特定し、獲得し、分類し、保護し、共有し、更新する。</p> | <p>ナレッジ管理ツールなどのITツールやサービスの導入を行えば、とても簡単にクリアできる要求事項です。</p> <p>文書として要件を満たすとなると制度設計による仕組み化が必要になります。</p> |

しくじり先生

検索または質問する

ホームページ

スペース アナリティクス

自分の下書き

無題 未公開

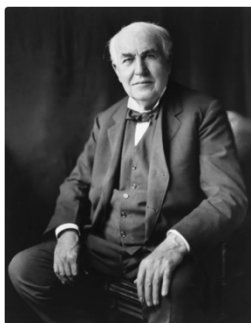
目次

- 2023-04 製品開発後の販売中...
- 提供製品とターゲット市場が...
- AWS認定試験、英語で受けて...

## しくじり先生の失敗自慢について

大塚 和彦 2025年02月03日 10時35分に編集しました 27回の表示

## 失敗を経験しない人に成長なし



## 1.このナレッジスペースについて

このスペースは、失敗を自慢するためのスペースです。自分やチーム、会社の失敗を面白い表現で自慢してください。

できれば、自分の思いつく範囲でよいので防止案も書いてください。防止案は特に必須ではありません。

イノベーション推進室にて案を考えてほしいと記載していただければ考えますのでよろしくお願ひします。

## 2.利用テンプレート

スペーステンプレートの「しくじり先生の失敗しちゃった（告白レポート）」を選択してください。

7.支援体制

- 7.1.2 人材
- 7.1.3 時間
- 7.1.4 財務
- 7.1.5 インフラストラクチャ
- 7.1.6 知識
- 7.1.7 知的財産
- 7.1.8 ツール&方法
- 7.2 力量
- 7.3 認識
- 7.4 コミュニケーション
- 7.5 文書化した情報

# 7.支援体制

## 7.1.8 ツール&方法

| ISO56001 – 要求事項  | 株式会社システムコンシェルジュのコメント   |
|--|--|
| <p>組織は、イノベーション・マネジメントシステムの効果的な実施のために必要なツール及び方法を決定し、提供し、維持するとともに、次の事項を考慮しなければならない。</p> <p>a) 様々な種類のイノベーション及びイノベーション活動を支援する適切なツール及び方法</p> <p>b) 認識の醸成及びトレーニングの提供</p> <p>注記 ツール及び方法は、例えば、バックキャストिंग、エスノグラフィ調査、シナリオプランニング、洞察、ブレーンストーミング、戦略的インテリジェンス、デザイン思考、TRIZ (発明的問題解決理論)、ロードマッピング及び/又はビジネスモデル・テンプレートが含まれる場合がある。</p> | <p>ここでのツールはITツールだけを指すわけではなくフレームワークや方法論などの広義のツールと方法を指します。</p> <p>a) 様々な種類のイノベーション及びイノベーション活動を支援する適切なツール及び方法</p> <p>-----</p> <p>ツールと方法を明確にし、決定し、提供、維持する目的は、共通言語、共有手法、共有ツールによってイノベーション活動の生産性と効率を高める目的があります。</p> <p>つまり、利用ツールなどについては「7.1.5 インフラストラクチャ」にて定義するため、利用ツールの使い方（方法）を定義する。多くの場合、Excel やタスク管理ツールの汎用ツールが多いため、マニュアル作成が必要になる場合があります。専用ツールの場合は、その方法しかないためマニュアルは簡易的なものであっても機能する可能性が高い。</p> <p>-----</p> |

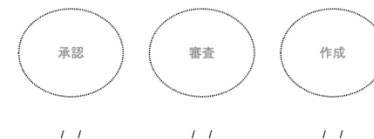
IMSXX-XXX

株式会社 ●●●●

### ツール及び方法の目録

関連文書：IMS-A02 IMS管理マニュアル

|      |  |     |  |
|------|--|-----|--|
| 作成日  |  | 更新日 |  |
| 作成部門 |  | 作成者 |  |



本書は、「7.1.8 ツール及び方法」に該当する文書となります。  
イノベーション組織は、共通言語、共通方法、共有ツールなどを決定し、教育訓練などを実施します。

| 番号 | 要求事項   | 方法名称      | 概要  | 教育対象 | 登録日 | 備考 |
|----|--------|-----------|---|------|-----|----|
| 1  | 7.2 力量 | フィットジャーニー | 製品・市場・ビジネスモデル・組織が段階的に“フィット（適合）”していく過程を体系的に示したフレームワークです。 | ○    |     |    |
| 2  | 7.2 力量 | デザイン思考    | 人間中心の視点で課題を捉え、共感・創造・検証を繰り返しながら新しい価値を生み出す思考プロセスのことです。    | ○    |     |    |
| 3  |        |           |   |      |     |    |

## 7.支援体制

7.1.2 人材

7.1.3 時間

7.1.4 財務

7.1.5 インフラストラクチャ

7.1.6 知識

7.1.7 知的財産

7.1.8 ツール&amp;方法

7.2 力量

7.3 認識

7.4 コミュニケーション

7.5 文書化した情報

## 7.支援体制

## 7.3 認識

| ISO56001 – 要求事項   | 株式会社システムコンシェルジュのコメント   |
|---|--|
| <p>組織の管理下で働く人々は、次の事項を認識していなければならない。</p> <p>a) イノベーションの意図、方針、戦略及び目標</p> <p>b) イノベーションの意味及びイノベーション活動の重要性</p> <p>c) イノベーションのパフォーマンスの向上によって得られる便益を含む、イノベーション・マネジメントシステムの有効性に関する自らの貢献</p> <p>d) イノベーション・マネジメントシステムの要求事項に適合しないことの意味</p> | <p>a) 組織が掲げるイノベーションの意図、方針、戦略、目標について（→組織として「何を目指して、どのようにイノベーションを進めていくか」）</p> <p>b) イノベーションとは何か、そしてその活動がなぜ重要なのか</p> <p>c) 自分の仕事が、イノベーションマネジメントシステムの効果的な運用にどう貢献しているか、また、イノベーションの成果が向上することによるメリット</p> <p>d) イノベーションマネジメントシステムのルールに従わなかった場合に起こる影響やリスク</p> <p>上記の認識を高めるための施策を講じる必要があります。<br/>そのための施策を明確にした文書化を行い、認識させるための教育や認知活動を行う必要があります。<br/>さらに、測定するために「5.4 イノベーション文化」によって測定します。</p> |

8.活動

8.1 活動の計画及び管理

8.2 イノベーションの取組み

8.3 イノベーションのプロセス

8.3.2 機会の特定

8.3.3 コンセプトの創造

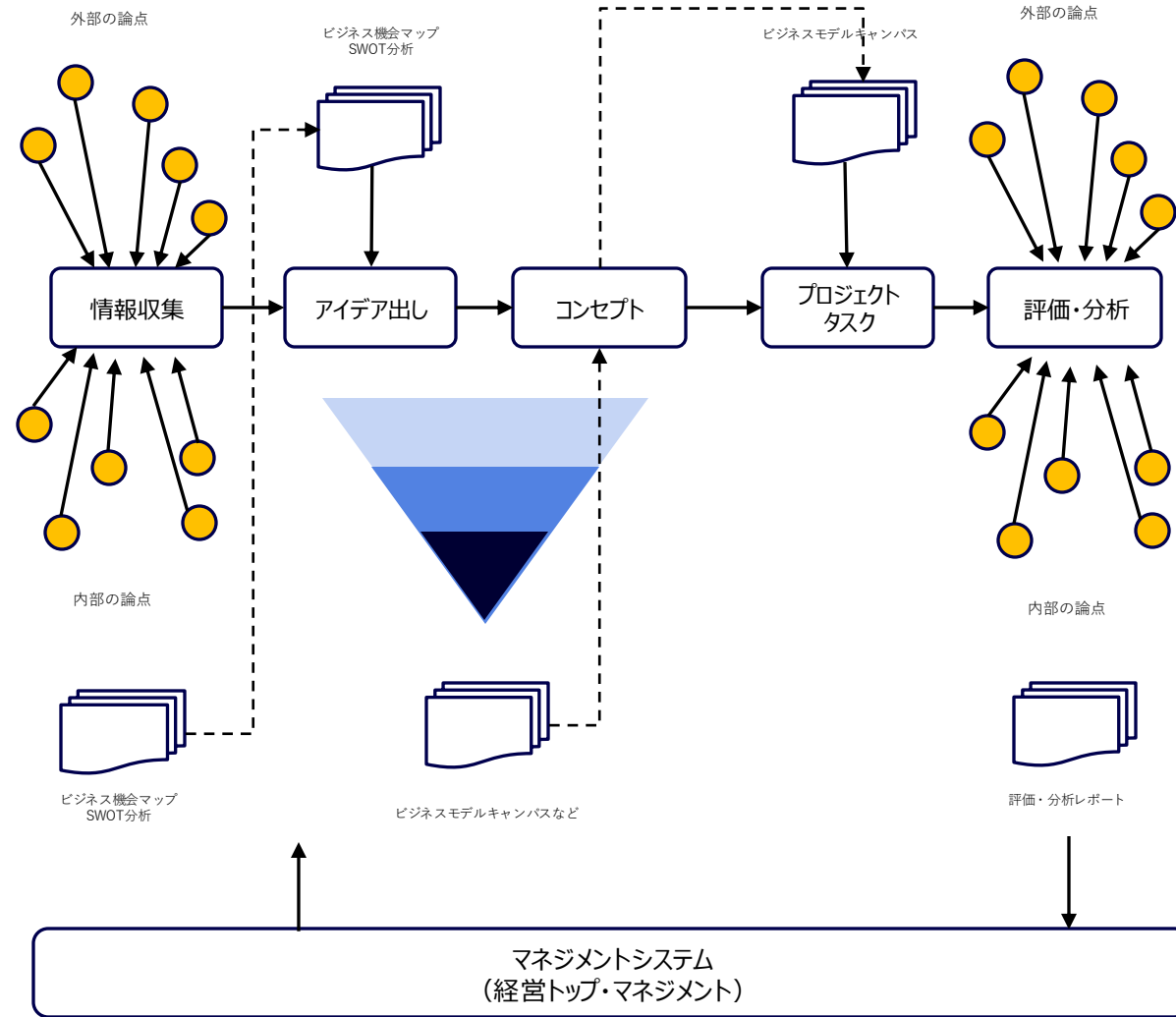
8.3.4 コンセプトの検証

8.3.5 ソリューションの開発

8.3.6 ソリューションの導入

# 8.活動

## 8.3 イノベーションのプロセス



9.活動

9.1 モニタリング、測定、分析及び評価

9.2 内部監査

9.3 マネジメントレビュー

10.改善

10.1 継続的改善

10.2 不適合及び是正処置

## 9.パフォーマンス評価

### 9.1 モニタリング、測定、分析及び評価

| ISO56001 – 要求事項  | 株式会社システムコンシェルジュのコメント  |
|--|---|
| <p>組織は次の事項を決定しなければならない。</p> <p>a) モニタリング及び測定の対象</p> <p>b) 使用されるイノベーションのパフォーマンス指標</p> <p>c) 妥当性のある結果を確実に得るために必要なモニタリング、測定、分析及び評価手法</p> <p>d) モニタリング及び測定の実施時期</p> <p>e) モニタリング及び測定の結果を分析及び評価する時期</p> <p>f) 責任者</p> <p>結果の証拠として、文書化した情報が利用可能でなければならない。<br/>注記 活動レベルのイノベーションのパフォーマンス指標は、次を含む場合がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>– インプットに関連した指標(例えば、洞察の数、取組みの数、配分された経営資源)</li> <li>– 処理能力に関連した指標(例えば、アイデア及びコンセプトの数、実験のスピード、価値実現までの時間)</li> <li>– アウトプットに関連した指標(例えば、ソリューション導入件数、導入速度)</li> <li>– 結果に関連した指標(例えば、イノベーション投資のリターン、利用者及び顧客の生産性及び満足度、社会及び環境へのインパクト)</li> </ul> | <p>この要求事項は、測定・評価するための指標、方法、時期、責任者などを明確にします。</p> <p style="text-align: center;"><b>Kitemark認証 BSI 要求事項</b></p> <p>組織は、明確な主要イノベーション業績指標（KPI）を整備しなければならない。KPIは定量的</p> <p>収益、利益、成長率、学習率などが挙げられる</p> <p style="text-align: center;"><b>審査試験項目</b></p> <p>イノベーション・パフォーマンス指標の管理責任者が明確であること、そして主要パフォーマンス指標、インプット、スループット、アウトプット、そして評価の概要が</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•</li> <li>•</li> <li>•</li> <li>•</li> <li>• 伝達されていること</li> <li>• これらの指標が、成果実現に至るまでの各段階で適用されていること</li> </ul> |

## 9.活動

9.1 モニタリング、測定、分析及び評価

9.2 内部監査

9.3 マネジメントレビュー

## 10.改善

10.1 継続的改善

10.2 不適合及び是正処置

## 10.改善

## 10.1 継続的改善

| ISO56001 – 要求事項  | 株式会社システムコンシェルジュのコメント   |
|--|--|
| 組織は、イノベーション・マネジメントシステムの適切性、妥当性、有効性及び効率性を継続的に改善しなければならない。 | ISO56002では「逸脱」という文言が存在しましたが、ISO56001より削除されています。<br>是正処置に対する改善については、別紙「是正処置要求・報告書」を参考にしてください。 |

## 10.2 不適合及び是正処置

| ISO56001 – 要求事項   | 株式会社システムコンシェルジュのコメント  |
|---|---|
| <p>不適合が発生した場合、組織は次の事項を実施しなければならない。</p> <p>a) 不適合に対処し、該当する場合には、次の事項を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) その不適合を管理し、是正するための処置をとる。</li> <li>2) その不適合によって起こった結果に対処する。</li> </ol> <p>b) その不適合が再発又は別のところで発生しないようにするため、次の事項により、不適合の原因を取り除く処置をとる必要性を評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) その不適合をレビューし、分析すること</li> <li>2) その不適合の原因を特定すること</li> <li>3) 類似の不適合の有無、又はそれらが発生する可能性を明確にすること</li> </ol> <p>c) あらゆる必要な処置を実施する。</p> <p>d) 実施された全ての是正処置の有効性をレビューする。</p> <p>e) 必要に応じ、イノベーション・マネジメントシステムに変更を加える。</p> <p>是正処置は、検出された不適合のもつ影響に応じたものでなければならない。</p> <p>次に示す事項の証拠として、文書化した情報が利用可能でなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>– 不適合の性質及びその後それに対してとったあらゆる処置</li> <li>– 全ての是正処置の結果</li> </ul> | ISO56001からは是正処置を内部監査員がモニタリングし、結果を確認する要求事項が削除されました。<br>そのため不適合、指摘事項に対する是正処置のモニタリングとレビューと結果、分析については、その役割や責任を定める必要があります。 |

会社紹介

自己紹介

本セミナーの目的

イノベーションの仕組みについて

日本の価値創造

ISO56001の実践

利用ツール

当社のサービス

OENS製品

プロセス管理

ナレッジ管理

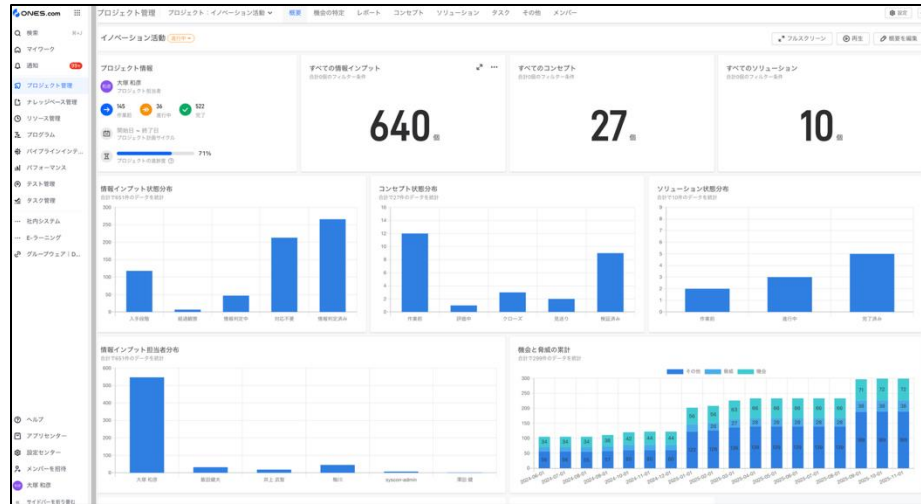
プロジェクト管理

| 30ユーザーまで無料<br>フリー   | スタンダード   | ビジネス  | エンタープライズ   | エンタープライズ Wiki   |
|---|--|---|--|---|
| <p>アジャイル手法、タスク管理<br/>ナレッジ管理を試したい方へ</p> <p>0円/月<br/>永久無料</p>   | <p>アジャイル手法、ウォーターフォール手法<br/>プロジェクト管理を効率化したい方へ</p> <p>年間契約 1ユーザーあたり<br/>520円~/月</p>  | <p>プロダクト開発、DevOps への適用<br/>SSO を行いたい方へ</p> <p>年間契約 1ユーザーあたり<br/>845円~/月</p>   | <p>業務最適化と競争力強化<br/>組織活性化を目指したい方へ</p> <p>年間契約 1ユーザーあたり<br/>1,105円~/月</p>  | <p>生成 AI+ナレッジ管理<br/>ナレッジ活用で強い組織を目指したい方へ</p> <p>年間契約 1ユーザーあたり<br/>850円~/月</p>      |
| <p>製品 (機能制限あり)</p> <p>ONES Project ONES Wiki</p> <p>プロジェクト管理機能<br/>プロジェクトテンプレート<br/>スプリント管理/エピック管理<br/>バックログ管理<br/>ダッシュボード (共有/個人)<br/>フィルタ (共有/個人)<br/>ステータス管理<br/>個別のフィールドと課題タイプ<br/>プロジェクトのアーカイブ<br/>プロジェクト属性/カスタムフィールド</p> <p>ナレッジ管理 (Wiki) 機能<br/>Wikiテンプレート<br/>スペースとページの権限管理<br/>作成機能</p> <p>Cloud</p> | <p>製品</p> <p>ONES Project ONES Wiki</p> <p>フリー版機能に以下を追加</p> <p>プロジェクト管理機能<br/>ガントチャート<br/>マイルストーンと成果物管理<br/>WBS依存関係<br/>進捗状況のスナップショット<br/>進捗状況の差分比較<br/>プロジェクト計画のExcelエクスポート<br/>プロジェクト計画のExcelインポート</p> <p>ナレッジ管理 (Wiki) 機能<br/>ページの外部公開</p> <p>Cloud</p> | <p>製品</p> <p>ONES Project ONES Wiki<br/>ONES Automation ONES Plan<br/>ONES Account Pipeline Integration<br/>Code Integration</p> <p>Cloud</p> | <p>製品</p> <p>ONES Project ONES Wiki<br/>ONES Automation ONES Plan<br/>ONES Account Pipeline Integration<br/>ONES Performance Code Integration</p> <p>Cloud On-Premises</p> | <p>製品</p> <p>ONES Wiki ONES Copilot<br/>ONES Account</p> <p>Cloud On-Premises</p> |
| <p>価格は税抜です。<br/>価格は年間サブスクリプション契約時の月額となります。<br/>全プラン (フリー含む) 監査ログ1年間、ストレージ無制限<br/>オンプレミス版は50ユーザーから契約可能<br/>全プラン (フリー除く) は1ユーザー単位で追加可能</p>  | <p>有料プランでは、<br/>アドオンの追加が可能です</p>   | <p>1ユーザーあたり<br/>455円/月</p> <p>1ユーザーあたり<br/>455円/月</p> <p>ONES Task ONES TestCase</p>  | <p>1ユーザーあたり<br/>455円/月</p> <p>1ユーザーあたり<br/>650円/月</p> <p>ONES Desk ONES Copilot</p>  |   |

# 利用ツール

OENS製品

ISO56001への実践



## 4.組織の状況

4.1 組織及びその状況の理解

4.2 利害関係者のニーズ予備期待の理解

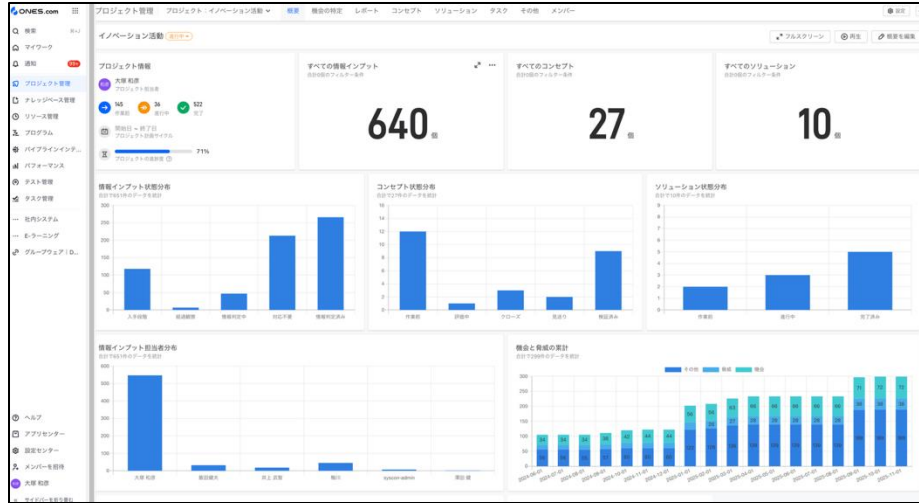
The screenshot shows a document management page for a report titled '生成AIの個人利用は日本26%、米国・中国に後れ 情報通信白書'. The page includes a header with the document ID '#3135' and a navigation menu. The main content area displays the document title and a list of fields for document management. A dropdown menu is open, showing options for '機会' (Opportunity), '成長' (Growth), and 'その他' (Other). The table below lists document details:

| フィールド        | 値                   | ステータス       | 優先度                 |
|--------------|---------------------|-------------|---------------------|
| 担当者          | 大塚 和彦               | 情報判定済み      | 普通                  |
| IMS   情報ソース  | 新聞・インターネットニュースなど    | IMS   情報分類  | IMS   URL           |
| 期末日          | 2025-07-09          | IMS   大分類   | IMS   対象事業          |
| IMS   情報カテゴリ | 外部   社会・文化・ゴジ       | IMS   影響度   | IMS   影響分類          |
| IMS   影響発生時期 | 0   影響の発生する時期は不明    | IMS   情報判定日 | IMS   情報判定          |
| IMS   判定理由   | 知識ベース保存             |             |                     |
| 情報判定中-凍在回数   | 0                   | 情報判定中-凍在時間  | 進行中-凍在              |
| 基本情報         |                     |             |                     |
| プロジェクト       | イノベーション活動           | 課題タイプ       | 作成者                 |
| 作成日時         | 2025-09-14 12:19:54 | 更新日時        | 2025-11-04 19:08:59 |

# 利用ツール

OENS製品

ISO56001への実践



## 4.組織の状況

4.1 組織及びその状況の理解

4.2 利害関係者のニーズ予備期待の理解

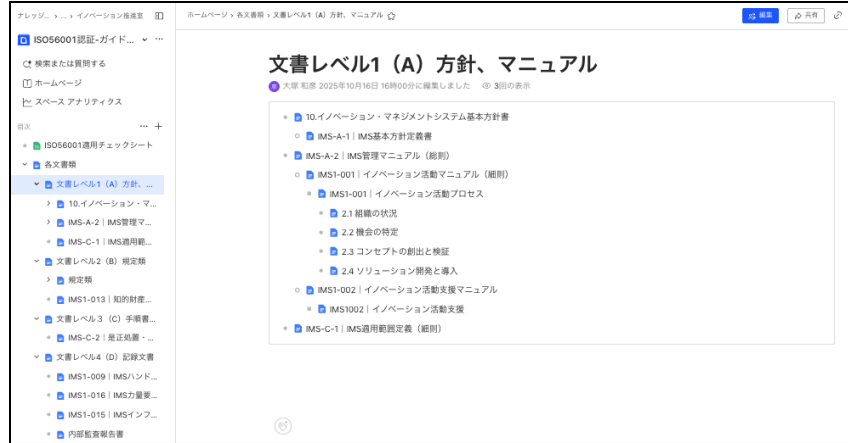
生成AIの個人利用は日本26%、米国・中国に後れ 情報通信白書

| フィールド        | 値                                 | ステータス                          | 優先度  |
|--------------|-----------------------------------|--------------------------------|--|
| 担当者          | 大塚 和彦                             | 情報判定済み                         | 普通   |
| 情報ソース        | 新聞・インターネットニュースなど                  | IMS   情報分類                     | IMS   URL: <a href="https://www.nikkei.com/article/DXZQJUA045CPUSA700C2000...">https://www.nikkei.com/article/DXZQJUA045CPUSA700C2000...</a> |
| 期末日          | 2025-07-09                        | IMS   大分類                      | IMS   対象事業   |
| IMS   情報カテゴリ | 外部   社会・文化・ゴジ                     | IMS   影響度                      | IMS   影響分類   |
| IMS   影響発生時期 | 0   影響の発生する時期は不明                  | IMS   情報判定日                    | IMS   情報判定   |
| IMS   判定理由   | 知識ベースへ保存                          |                                |  |
| 情報判定中-滞在回数   | 0                                 | 情報判定中-滞在時間                     | 進行中-精度   |
| 基本情報         | プロジェクト: <a href="#">イノベーション活動</a> | 課題タイプ: <a href="#">情報インプット</a> | 作成者: <a href="#">大塚 和彦</a>   |
| 作成日時         | 2025-09-14 12:19:54               | 更新日時                           | 2025-11-04 19:08:59  |

# 利用ツール

## OENS製品

### ISO56001への実践



#### 4.3 イノベーション・マネジメントシステムの適用範囲

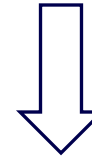
#### 4.4 イノベーション・マネジメントシステム

### 5.リーダーシップ

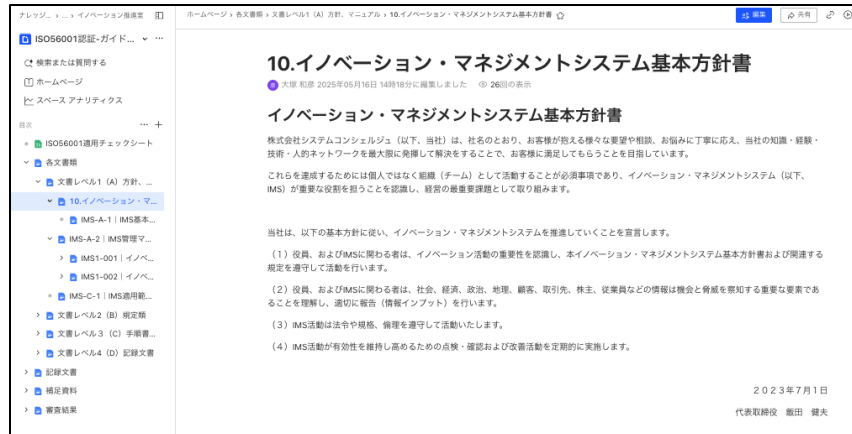
#### 5.1 リーダーシップ、及びコミットメント

#### 5.2 イノベーションの方針

#### 5.5 役割、責任、及び権限



#### 7.5.3 文書化した情報の管理



# 利用ツール

OENS製品

ISO56001への実践

プロジェクト管理 | プロジェクト：IMS計画 (SC21期) | 概要 要件 ガント バグ タスク リスク リリース レポート モジュール フィルター ドキュメント

全体の進捗 ビュー | +

ニ: ガント ツリー表示 | フィルター | グループ化

検索: 課題のタイトル, ID で検索

ベースライン | マイル

| タイトル                      | 課題タイプ | ステータス |
|---------------------------|-------|-------|
| 4. 組織の状況                  | 要件    | 未計画   |
| 2025年7月組織状況レポート           | タスク   | クローズ  |
| 2025年8月組織状況レポート           | タスク   | クローズ  |
| 2025年9月組織状況レポート           | タスク   | クローズ  |
| 2025年10月組織... 期限を5日過ぎま... | タスク   | 進行中   |
| 2025年11月組織状況レポート          | タスク   | 作業前   |
| 2025年12月組織状況レポート          | タスク   | 作業前   |
| 2026年1月組織状況レポート           | タスク   | 作業前   |
| 2026年2月組織状況レポート           | タスク   | 作業前   |
| 2026年3月組織状況レポート           | タスク   | 作業前   |
| 2026年4月組織状況レポート           | タスク   | 作業前   |
| 2026年5月組織状況レポート           | タスク   | 作業前   |
| 2026年6月組織状況レポート           | タスク   | 作業前   |
| 5. リーダーシップ                | 要件    | 未計画   |
| 方針・戦略の公示と説明               | タスク   | クローズ  |
| イノベーション文... 期限を5日過ぎま...   | タスク   | 進行中   |
| 7. 支援体制                   | 要件    | 未計画   |
| 7.2 力量   ISO56001基礎教育講座   | タスク   | 作業前   |

## 6.計画

- 6.1 リスク及び機会への取り組み
- 6.2 イノベーションの目標及び達成するための計画

### 6.3 変更の計画策定

プロジェクト管理 | プロジェクト：ISO変更管理プロジェクト | 概要 改善一覧 タスク ドキュメント メンバー その他ナビ

ISO56001変更管... ISO27001変更管... Pマーク変更管理...

すべてのIMS改善 作業前 進行中 完了

+ IMS改善 新規作成 合計 28 個 保存 別名で保存 復元 その他 ソート 更新日時 グループ化 IMS | 指摘... フィルター

| IMS   指摘種別  | 課題タイプ | ID    | IMS   管...    | IMS   指... | IMS   変... | IMS   指... | タイトル       |
|-------------|-------|-------|---------------|------------|------------|------------|------------|
| IMS計画変更 (1) |       |       |               |            |            |            |            |
| IMS改善       |       | #3484 |               | イノベーション... | 計画・方針関連    | IMS計画変更    | 会議体の変更...  |
| その他 (1)     |       |       |               |            |            |            |            |
| IMS改善       |       | #3502 |               | イノベーション... | 規定関連       | その他        | マネジメント...  |
| 不適合 (1)     |       |       |               |            |            |            |            |
| IMS改善       |       | #2453 | 2656283-20... | 外部審査委員     | マニュアル関連    | 不適合        | 価値の測定方法... |
| 情報項目 (2)    |       |       |               |            |            |            |            |
| IMS改善       |       | #3019 |               | イノベーション... | その他        | 情報項目       | 情報インプット... |
| IMS改善       |       | #3482 |               | イノベーション... | その他        | 情報項目       | 情報ソースの...  |
| 改善の機会 (22)  |       |       |               |            |            |            |            |
| IMS改善       |       | #3583 | RQ202510-0... | イノベーション... | 規定関連       | 改善の機会      | 知的財産管理...  |
| IMS改善       |       | #1878 | 2604103-20... | 外部審査委員     | プロセス       | 改善の機会      | 実証実験に関...  |
| IMS改善       |       | #3515 | 2656283-20... | 外部審査委員     | マニュアル関連    | 改善の機会      | アンケート実...  |

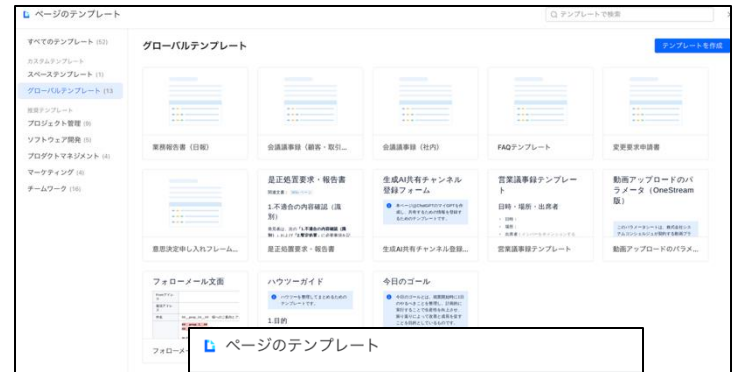
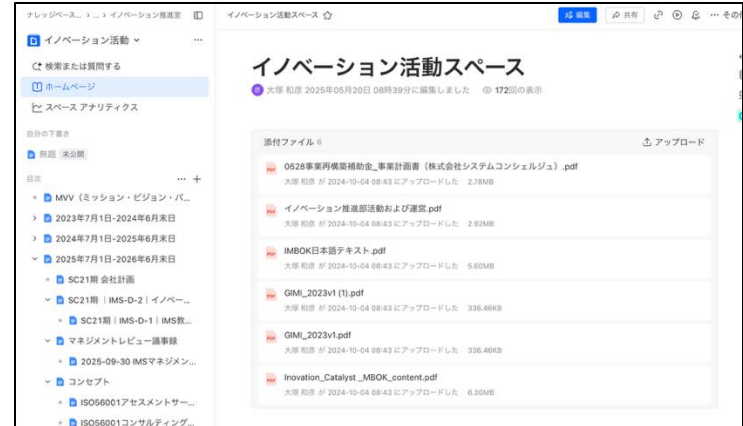
### 6.4 イノベーションのポートフォリオ

| 名称                                | 担当者   | 予定開始日      | 予定終了日      | プロジェクト数 | スプリント数 | 課題数 |
|-----------------------------------|-------|------------|------------|---------|--------|-----|
| ITインフラエンジニアリング事業                  | 大塚 和彦 | 2025-07-01 | 2026-06-30 | 0       | 0      | 0   |
| ジェネレーティブプロバイダー事業                  | 大塚 和彦 | 2025-07-01 | 2026-06-30 | 0       | 0      | 0   |
| デジタルトランスフォーメーション事業                | 大塚 和彦 | 2025-07-01 | 2026-06-30 | 5       | 16     | 253 |
| プロジェクト IMSPJ149   動画プラットフォーム      | 大塚 和彦 | 2025-10-15 | 2025-11-21 |         | 3      | 13  |
| プロジェクト IMSPJ1987   ISO56001コンサ... | 大塚 和彦 | 2025-03-17 | 2025-04-18 |         | 1      | 16  |
| プロジェクト IMSPJ3503   ISO56001コンサ... | 大塚 和彦 | 2025-09-15 | 2025-11-07 |         | 1      | 11  |
| プロジェクト IMSPJ3504   ISO56001アセス... | 大塚 和彦 |            |            |         | 0      | 0   |
| プロジェクト アイデアクエスト (開発フェー...         | 梅川    |            |            |         | 11     | 213 |
| ビジネスプロセスアウトソーシング (BPO...          | 大塚 和彦 | 2025-07-01 | 2026-06-30 | 0       | 0      | 0   |

## 7. 支援体制

### 7.1.6 知識

#### 生成AI + ナレッジ管理ツール『ONES Wiki』で完全なナレッジ管理



利用ツール

OENS製品

ISO56001への実践

### 7.1.7 知的財産

プロジェクト管理 | プロジェクト: 知的財産管理 | 概要 | ドキュメント | メンバー | 知的財産 | タスク

すべての知的財産 | 作業前 | 進行中 | 完了 | 出願前 | 取得済み

+ 知的財産 | 新規作成 | 合計 2 個 | その他 | レイアウト | テーブル | ソート | 作成日時 | グループ化 | グループ化... | フィルター | 検索 | 設定

| ID    | IP_出願番号      | IP_分類 | IP_出願日     | タイトル                                   | IP_存続期...  | 優先 |
|-------|--------------|-------|------------|--|------------|----|
| #3593 |              | 商標    | 2025-11-05 | 商標登録 [REDACTED]                        |            | 普通 |
| #3592 | 商願2023-96... | 商標    | 2023-08-30 | 商標登録   イノベーションワールド, イノベーション, ワールド, ... | 2034-03-25 | 普通 |

8 活動

OENS製品

ISO56001への実践

The screenshot displays the OENS project management interface. The top navigation bar includes 'プロジェクト管理', 'プロジェクト: イノベーション活動', '概要', '機会の特定', 'レポート', 'コンセプト', and 'ソリューション'. The main content area shows a list of tasks under '情報インプット'. A specific task titled '汎用LLMはもう終わり? Gartnerが「次の5年」を決める技術を発表' is highlighted. A red arrow points to this task, and a callout box contains the same title. Below the task list, a dropdown menu is open, showing options for 'IMS | 情報判定' (set to '未設定'), 'IMS | 判定理由' (set to 'イノベーション活動'), and 'IMS | 情報判定中-滞在回数' (set to '1'). Other options include '情報判定中-滞在時間', 'タスク活動', '情報共有活動', '進行中-頻度', 'その他', and '対応不要'. The bottom section of the screenshot shows project details for 'IMSPJ1845 | 従業員向けのカイゼン要望登録の仕組み', including project information, description, and a progress chart.

8.3.2 機会の特定  
8.3.3 コンセプトの創造  
8.3.4 コンセプトの検証

8.3.5 ソリューションの開発  
8.3.6 ソリューションの導入

利用ツール

OENS製品

ISO56001への実践

## 9.パフォーマンス

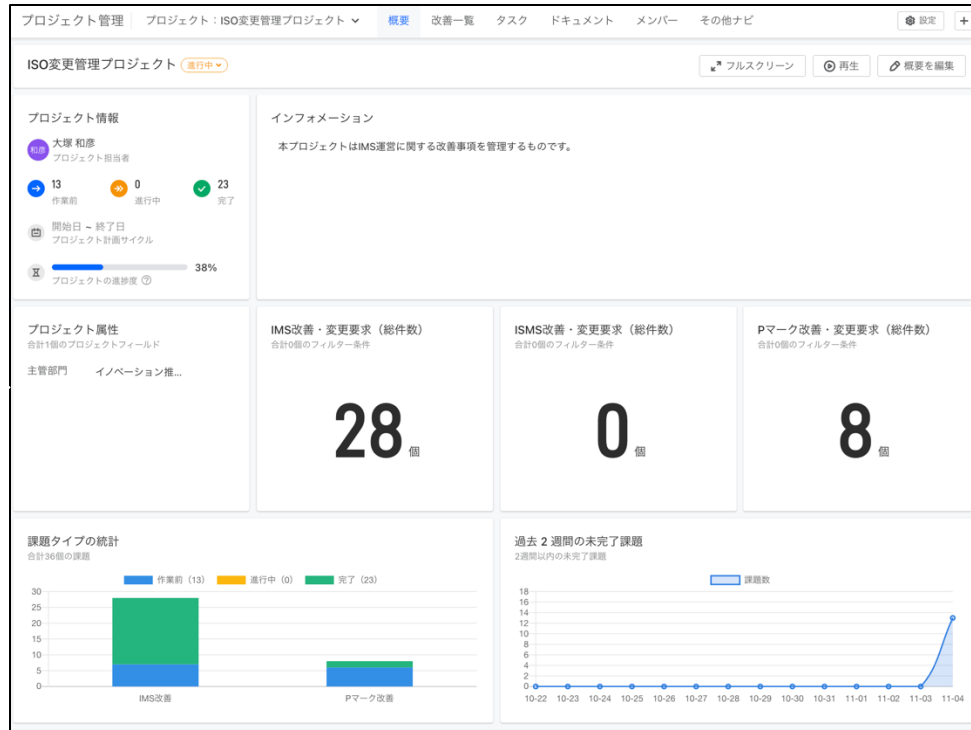


利用ツール

OENS製品

ISO56001への実践

## 10.改善



ISO56001変更管... ISO27001変更管... Pマーク変更管理...

すべてのIMS改善 作業前 進行中 完了

+ IMS改善 新規作成 合計 22 個 保存 別名で保存 復元 その他 ソート 更新日時 グループ化 IMS | 指摘...

| IMS   指摘種別 | 課題タイプ | ID    | IMS   管...    | IMS   指... | IMS   変... | IMS   指... | タイトル    |
|------------|-------|-------|---------------|------------|------------|------------|---------|
| 改善の機会 (22) | IMS改善 | #3583 | RQ202510-0... | イノベーション... | 特定調達       | 改善の機会      | 知的財産    |
|            | IMS改善 | #1878 | 2604103-20... | 外部審査委員     | プロセス       | 改善の機会      | 実証実験    |
|            | IMS改善 | #3515 | 2656283-20... | 外部審査委員     | マニュアル関連    | 改善の機会      | アンケート   |
|            | IMS改善 | #1875 | 2604103-20... | 外部審査委員     | マニュアル関連    | 改善の機会      | 従業員ア    |
|            | IMS改善 | #1877 | 2604103-20... | 外部審査委員     | 特定調達       | 改善の機会      | 内部監査    |
|            | IMS改善 | #3514 | 2656283-20... | 外部審査委員     | プロセス       | 改善の機会      | リスクレ    |
|            | IMS改善 | #3516 | 2656283-20... | 外部審査委員     | プロセス       | 改善の機会      | コンセプ    |
|            | IMS改善 | #1880 | 2604103-20... | 外部審査委員     | その他        | 改善の機会      | ソリュー    |
|            | IMS改善 | #1874 |               | 内部監査員      |            | 改善の機会      | ISO5600 |

会社紹介

自己紹介

本セミナーの目的

イノベーションの仕組みについて

日本の価値創造




ISO56001の実践

利用ツール

当社のサービス

# 株式会社システムコンシェルジュの製品・サービスメニュー

## ICTツールをベースにした導入支援サービス

|       | イノベーション管理   | ナレッジ管理   | プロジェクト管理  |
|-------|---|--|---|
| 方法論   | 国際標準規格<br>ISO56002/ISO56001<br><br>Global Innovation<br>Management Institute      | 国際標準規格<br>ISO30401/ISO42001<br><br>日本文書情報<br>マネジメント                                | アジャイル・スクラム<br>ウォーターフォール<br>SAFeなど   |
| ITツール |  |  |  |
| 支援    | 導入支援サポート<br>運用支援サポート  | 導入支援サポート<br>運用支援サポート   | 導入支援サポート<br>運用支援サポート  |
| 力量・教育 | イノベーション人材育成研修<br>デザイン思考研修<br>イノベーション・ワークショップ<br>ISO56002概論<br>IdeaScale基礎         | ISO30401概論<br>ONES Wiki基礎  | アジャイル・スクラム研修<br>ウォーターフォール研修<br>ONES Project基礎                                       |

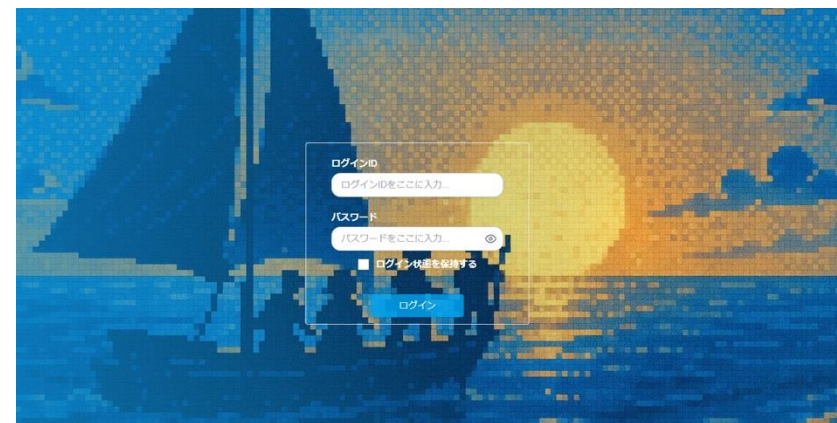
# 株式会社システムコンシェルジュの製品・サービスメニュー



手軽に楽しくゲーム感覚でビジネス活用できるアイデアを集める

IDEAQUEST（アイデアクエスト）は、規定やルール、マニュアルなどで活動するような堅苦しい仕組みではなく、ゲーム要素を取り入れて手軽に楽しくアイデア出しができるアイデア管理ツールです。

ISO56001（イノベーション・マネジメントシステム）を実践する要素も取り入れているため、ゲーム感覚でありながら本格的なイノベーションの仕組みを構築します。



# 株式会社システムコンシェルジュの製品・サービスメニュー

## 主要機能

### クエスト管理

目的・テーマを設定したクエストを作成。目的・テーマだけでなく報酬、難易度（クエストレベル）、期限、クエストオーナーなども設定して公開

### パーティ管理

クエストに挑むパーティメンバーを管理。クエストの内容に応じてパーティを組んだり、自由に参加したり、仲間と一緒にクエストにアイデアを出してください。

### アイデア管理

クエストの目的・テーマに対してアイデアを登録します。アイデアの評価によって報酬と経験値、称号ランクなどがカウントアップされます。アイデアに対して、「いいね」や「投票」ができます。

### 世界管理 (システム管理)

世界管理（システム管理）は、この世界に所属する人々（メンバー）を管理します。アカウント管理、パスワードポリシー、称号ポリシー、通貨ポリシーなどの設定を行います

### プロフィール管理

メンバーのプロフィールを設定します。アバター、メンバー名、パスワード、メッセージ、職業、称号ランク、経験値などが表示され、ステータス更新によってランクアップします。

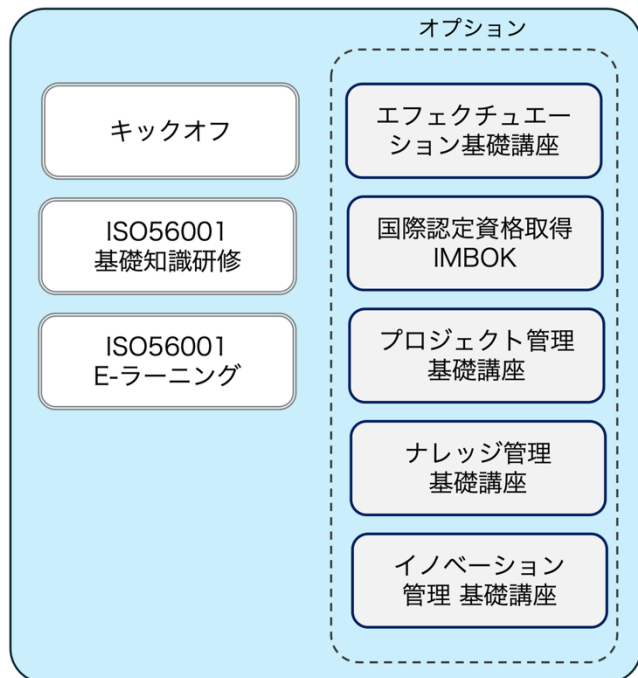
### レポート

世界（システム）内のクエストの活動状況やアイデア状況などを「知の書（インベクションの種）」としてレポート出力します。

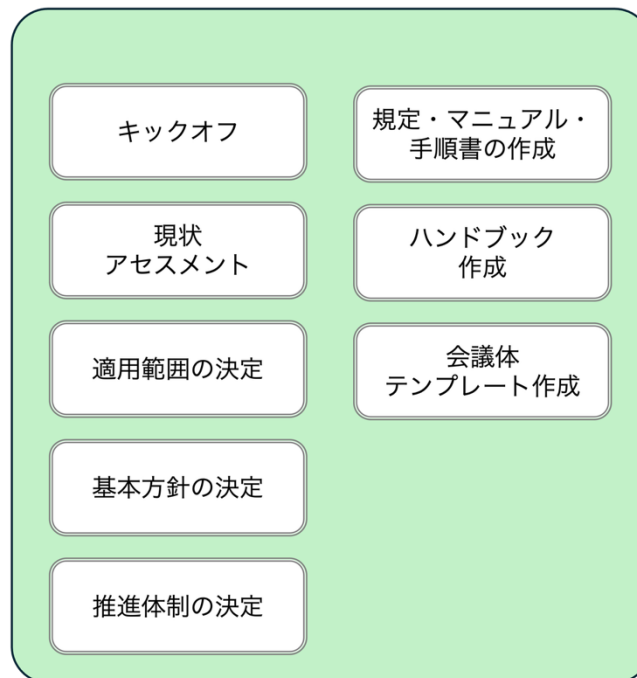
# 株式会社システムコンシェルジュのサービスメニュー

## ISO56001 / ISO56002およびイノベーション関連支援サービス

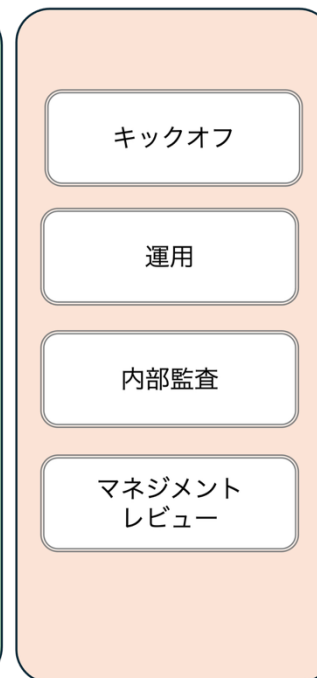
### スタートアップ



### 導入支援サービス



### 運用支援サービス



# 株式会社システムコンシェルジュのサービスメニュー

## イノベーション・マネジメント支援サービス

## 月額45万円からスタートできる

| サービス項目          | 内容   | 料金（税別）            | 備考  |
|-----------------|--|-------------------|---|
| IMS支援：スターター（基本） | 支援回数：月2回 ※1回あたり2時間程度<br>WEBシステムによるQA対応（月10件まで）<br>イノベーション組織サーベイ（50名まで） | 450,000円/月額       | 原則、オンライン対応でのコンサル支援付き<br>オンサイト対応の場合は別途調整となります。<br>必要に応じて、資料・テンプレートを提供します。<br>最小契約期間：3ヶ月  |
| IMS支援：スターター（追加） | 追加のオンライン支援（4時間ごと）<br>WEBシステムによるQA対応（月5件まで）                             | 200,000円/月額       | 基本契約に追加する。<br>基本契約期間内で、必要な月に追加可能  |
| IMS支援：基礎知識研修    | ISO56001およびISO56002の基礎知識を学ぶ研修  | 600,000円/開催       | オンライン開催を想定（オンサイト対応の場合は別途調整）<br>1開催あたり5時間を想定/参加人数5名まで（1名単位で追加可能）<br>追加1名あたり80,000円（税別）となり、最大10名まで<br>研修テキスト、ChatGPTチャンネルの案内などのサービス提供あり |
| eラーニング（提供予定）    | テキスト+動画で学べるオンライン講座<br>コースごとのサブスクリプション                                  | 月額 10,000～20,000円 | 各コースごとに契約、順次リリース予定  |

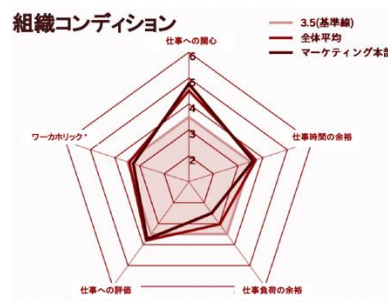
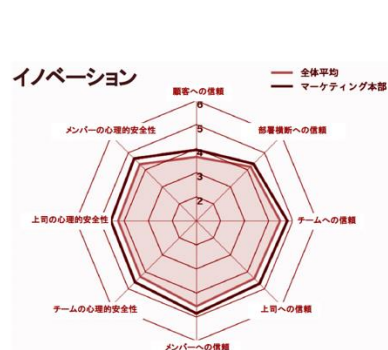
※導入支援サービス、および運用支援サービスについては、組織の規模や要件に応じて個別見積となります。

# 株式会社システムコンシェルジュのサービスメニュー

## イノベーション組織サーベイ

50万円→25万円（～50名まで）  
（2026年1月末日までの限定価格）

### イノベーション・サーベイ | 全社・部署レポート



|                    | 今回<br>2021/12 | 前回<br>2021/04 | 差分<br>8ヶ月   | 回答範囲<br>(1SD)  | 部署<br>順位        |
|--------------------|---------------|---------------|-------------|----------------|-----------------|
| <b>ワークエンゲージメント</b> | <b>3.6</b>    | <b>3.2</b>    | <b>+0.4</b> | <b>2.3~5.1</b> | <b>5th /16</b>  |
| オープンイノベーション        |               |               |             |                |                 |
| 顧客への信頼             | 4.1           | 3.9           | +0.2        | 3.1~5.0        | 2nd /16         |
| 社外への信頼             | 3.8           | 4.0           | -0.2        | 3.2~5.2        | 8th /16         |
| コラボレーション           |               |               |             |                |                 |
| 部署横断への信頼           | 4.3           | 4.2           | +0.1        | 3.7~5.1        | 6th /16         |
| チームワーク             |               |               |             |                |                 |
| チームへの信頼(全体)        | 4.7           | 4.5           | +0.2        | 2.3~5.8        | 2nd /16         |
| 上司への信頼             | 4.6           | 4.6           | ±0.0        | 3.7~5.6        | 2nd /16         |
| メンバーへの信頼           | 4.8           | 4.7           | +0.1        | 4.0~5.7        | 2nd /16         |
| 心理的安全性             |               |               |             |                |                 |
| 心理的安全性(全体)         | 4.6           | 4.5           | +0.1        | 2.5~5.6        | 2nd /16         |
| 上司の心理的安全性          | 4.6           | 4.5           | +0.1        | 2.4~5.8        | 2nd /16         |
| メンバーの心理的安全性        | 4.8           | 4.5           | +0.3        | 2.7~5.7        | 2nd /16         |
| <b>組織コンディション</b>   | <b>4.2</b>    | <b>3.7</b>    | <b>+0.5</b> | <b>2.8~5.6</b> | <b>10th /16</b> |
| 5つの要因              |               |               |             |                |                 |
| 仕事への関心             | 4.9           | 4.7           | +0.2        | 3.7~5.7        | 4th /16         |
| 仕事時間の余裕            | 3.7           | 3.6           | +0.1        | 2.1~5.2        | 12th /16        |
| 仕事負荷の余裕            | 2.4           | 2.2           | +0.2        | 1.2~3.8        | 14th /16        |
| 仕事への評価             | 3.6           | 3.6           | ±0.0        | 2.4~5.1        | 11th /16        |
| ワークホリック*           | 3.4           | 3.3           | +0.1        | 1.9~4.8        | 13th /16        |

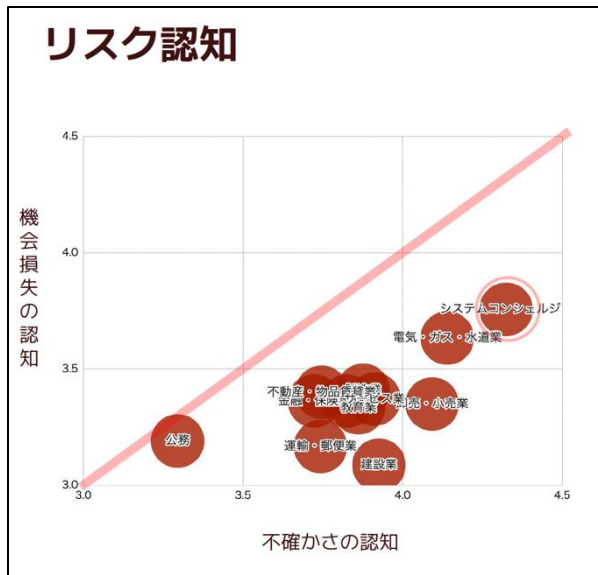
#### 組織開発の施策を検討するヒント

| 影響度の大きさ順(信頼項目)     | 今回<br>2021/12 | 前回  | 差分   |
|--------------------|---------------|-----|------|
| 1 部署横断への信頼         | 4.3           | 4.2 | +0.1 |
| 2 顧客への信頼           | 3.8           | 4.0 | -0.2 |
| 3 社外への信頼           | 3.8           | 4.0 | -0.2 |
| 4 上司への信頼           | 4.6           | 4.6 | ±0.0 |
| 5 メンバーへの信頼         | 4.8           | 4.7 | +0.1 |
| のびしろ順(心理的安全性 詳細項目) | 今回<br>2021/12 | 前回  | 差分   |
| 1 リスク回避            | 4.2           | 4.6 | +0.2 |
| 2 役割期待             | 4.3           | 4.1 | +0.4 |
| 3 支援               | 4.7           | 4.5 | +0.2 |
| 4 尊重               | 4.8           | 4.8 | ±0.0 |
| 5 受容               | 4.8           | 4.8 | ±0.0 |

| 影響度の大きさ順   | 今回<br>2021/12 | 前回  | 差分   |
|------------|---------------|-----|------|
| 1 仕事負荷の余裕  | 2.4           | 2.2 | +0.2 |
| 2 仕事への関心   | 4.9           | 4.7 | +0.2 |
| 3 ワークホリック* | 3.4           | 3.3 | +0.1 |
| 4 仕事への評価   | 3.6           | 3.6 | ±0.0 |
| 5 仕事時間の余裕  | 3.7           | 3.6 | +0.1 |

# 株式会社システムコンシェルジュのサービスメニュー

## イノベーション組織サーベイ

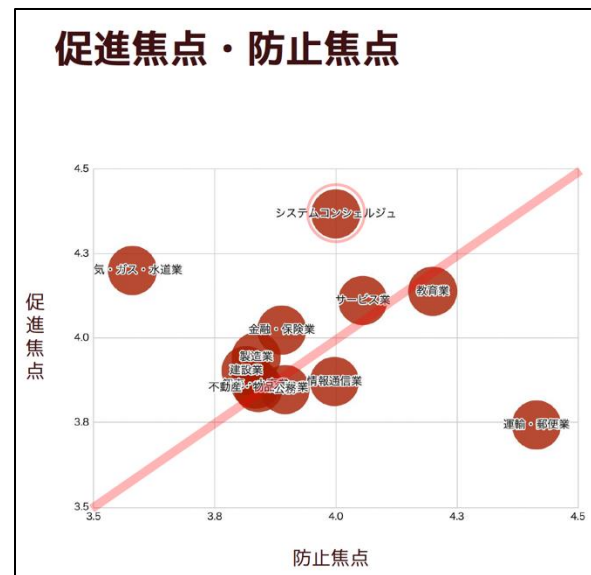


#### <解説>

2つのリスク認知がある。

不確かさの認知：失敗した時に損失を被るリスクに対する認知  
または、社会情勢や経済動向が変化が大きく不確かという認知  
機会損失の認知：成功した時に得られる成果を逸するリスクへの認知

一般に、不確かさの認知は、中間地である3.5を上回るが、機会損失の認知は、あまり認知されず、中間地である3.5を下回る。イノベーション組織を志向する場合は、どちらも重要である。成功する追求する機会損失の認知は特に高いことが求められる。



#### <解説>

ヒトの動機づけには大きく2つの心理的な要素があります。  
失敗と成功のどちらにフォーカス（焦点を当てるか）が異なります。

- 1つは、**失敗を回避しようとするココロ（防止焦点）**
- 2つめは、**成功を目指そうとするココロ（促進焦点）**

同じように前に進むことであっても「何かネガティブなことから遠ざかろうと前へと進む（防止焦点）」ココロと「目標や報酬に向かって前へと進む（促進焦点）」ココロがあります。この2つの概念は「独立」で、どちらも高い人、どちらも低い人ということがありえます。一方で、結果的に、多くの方は「促進焦点が高いと防止焦点が低い」、また、その逆といった「相関」が見られます。

# 株式会社システムコンシェルジュのサービスメニュー

イノベーション組織サーベイは、対象人数によってサービス価格が変動いたします。

| 対象人数    | サーベイ料金/回   | 備考             |
|---------|------------|----------------|
| 50名まで   | ¥500,000   | ※スタンダードサポートに含む |
| 100名まで  | ¥900,000   |                |
| 250名まで  | ¥1,875,000 |                |
| 500名まで  | ¥3,000,000 |                |
| 750名まで  | ¥3,375,000 |                |
| 1000名まで | ¥3,500,000 |                |
| 1500名まで | ¥3,750,000 |                |
| 2000名まで | ¥4,000,000 |                |
| 3000名まで | ¥4,200,000 |                |
| 4000名まで | ¥4,400,000 |                |
| 5000名まで | ¥4,750,000 |                |
| 50001以上 | 応相談        |                |

※IDEASCALEスタンダードサポートをご契約のお客様は、50名までのイノベーション組織サーベイが含まれます。

本サービスの提供予定時期は、2026年2月を予定しています。  
2026年1月までに**先行お申し込みをいただく場合は、料金を半額**にてご提供させていただきます。


# 情報公開サイト: イノベーション・ワールド

**INNOVATION world**  
新時代のイノベーションとDXの最新情報メディア

記事一覧 特集 カテゴリ ABOUT 検索 [コンシェルジュへ相談](#)

## ALL


すべての記事



### 変化をチャンスに変える働き方改革 ——イノベーションの土台づくり

働き方改革を単なる労働環境の改善ではなく、イノベーション創出の基盤と位置づけ、その関係性を解説します。柔軟な働き方や多様性の促進、心理的安全性の向上が組織と個人の創造性を高め、新たな価値を生み出す環境づくりにどのように貢献するかを、具体的な事例を交えて紹介しています。


INNOVATION WORLD 編集部  
2025.04.14 #働き方改革



### ビジネスコンポーザビリティ：変化に強い企業をつくるイノベーション戦略


企業が持続的に成長するためには「柔軟に再構成できる組織」が必要です。この記事では、Gartnerの「ビジネス・コンポーザビリティ」概念を中心に、変化に強い企業を実現するための戦略と実践ステップを解説。ISO 56001 / 56002との関係や、AmazonやMicrosoftの事例、日本企業の課題とその解決方法を示しています。変化をチャンスに変える組織づくりのヒントを提供しています。

INNOVATION WORLD 編集部  
2025.04.10 #ISO56001関連 #人材育成と組織開発




### ISO56002 (イノベーション・マネジメントシステム) の認証を取得した企業

INNOVATION WORLD 編集部




### (開催終了) 3月4日セミナー開催 | 新たなビジネスを確実に生みスケールさせる方法

INNOVATION WORLD 編集部




### 4月16日セミナー開催 | はじめてのイノベーション・マネジメントシステム 国際標準規格: ISO56001 / ISO56002の基礎を知る

INNOVATION WORLD 編集部




### イノベーション活動に対する評価の基本的な考え方

INNOVATION WORLD 編集部



### 2024年イノベーションに関する調査レポートを公開

INNOVATION WORLD 編集部



### はじめてのイノベーション・マネジメントシステム

国際標準規格: ISO56001 / ISO56002 の基礎を知る

私たちの知識・ノウハウを公開

<https://innovation.systemcon.co.jp/>

## 株式会社システムコンシェルジュへの相談



<https://systemcon.co.jp/contact/>

03-5577-5735

[innovation@systemcon.co.jp](mailto:innovation@systemcon.co.jp)

株式会社システムコンシェルジュ  
イノベーション推進室 大塚